

平成21年度(5)

# 県政モニター アンケート報告書

テーマ「地球温暖化(気候変動)対策」

平成22年 2 月

# も く じ

調査の概要 .....	1
調査結果	
1 地球温暖化についての感じ方 .....	3
(地球温暖化問題の認識)	
(日常生活での実感)	
(地球温暖化への感じ方)	
2 低炭素社会づくりについて .....	7
(低炭素社会を実現させるべきか)	
(低炭素社会づくりの対応方針)	
(低炭素社会実現のための家計負担)	
3 今後必要な施策について .....	12
(家庭のエネルギーに関する知識・理解)	
(家庭での地球温暖化対策の実施状況)	
(家庭における省エネ改修等の意向)	
(建物や住宅の省エネ化)	
(低炭素の交通)	
(カーボンフットプリント)	
(カーボンオフセットに対する評価)	
(温室効果ガス排出削減の義務化)	
4 自由意見 .....	23
質問と回答 .....	34

# 調査の概要

## 1 調査のテーマ

地球温暖化（気候変動）対策

## 2 調査の趣旨

私たちの便利な暮らしを支える安価なエネルギー。しかし、化石燃料（石油や石炭、天然ガス）の大量消費がもたらす、「温室効果ガス」（二酸化炭素、メタンガスなど）の増加が、地球の気候を変動させつつあるのではないかとされています。

これを防ぐには、化石燃料に依存する社会の仕組みを大きく変えていく必要があります。そのためには、エネルギーの無駄を徹底的になくすとともに、太陽光などの再生可能エネルギーの導入を大幅に拡大する必要があるとされています。

政府も、「温室効果ガス」の排出を2050年までに60～80%、2020年までに25%削減するという目標を掲げて国際交渉に臨もうとしています。

県では、こうした状況を踏まえて、地球温暖化防止に関する新たな中長期計画づくりに取り組んでいますが、実効性のある対策を取るためには、県民の皆様の生活にも影響が及ぶ可能性があります。

今回は、地球温暖化問題に関する意識や、県で取るべき対策などについて、県民の皆様のお考えを把握するため、県政モニターの皆様にご意見をお聞きしました。

## 3 調査対象

県政モニター 496人（平成21年11月6日現在）

内訳

区 分	計		名古屋地域	尾張地域	三河地域	
	人 員	構 成 比				
総 数	496人	100.0%	151人	189人	156人	
性 別	男 性	243	49.0	74	93	76
	女 性	253	51.0	77	96	80
年 代 別	20 代	72	14.5	21	30	21
	30 代	106	21.4	31	42	33
	40 代	88	17.7	23	32	33
	50 代	86	17.3	25	30	31
	60 代 以上	144	29.0	51	55	38

## 4 調査期間

平成21年11月6日から平成21年11月22日まで

## 5 調査方法

郵送・インターネット（選択）

## 6 回答者数

486人（回収率98.0%）

### 【記号・符号・用語の説明】

- (1) N (Number of Cases の略) は比例算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示す。
- (2) M. T. (Multiple Total) は複数回答を認める質問に対する回答の比率の合計を示す。(無回答者の数値は含まない。)
- (3) 回答が1つの質問であっても、小数第2位を四捨五入して割合を求めているため、合計が100%にならないことがある。

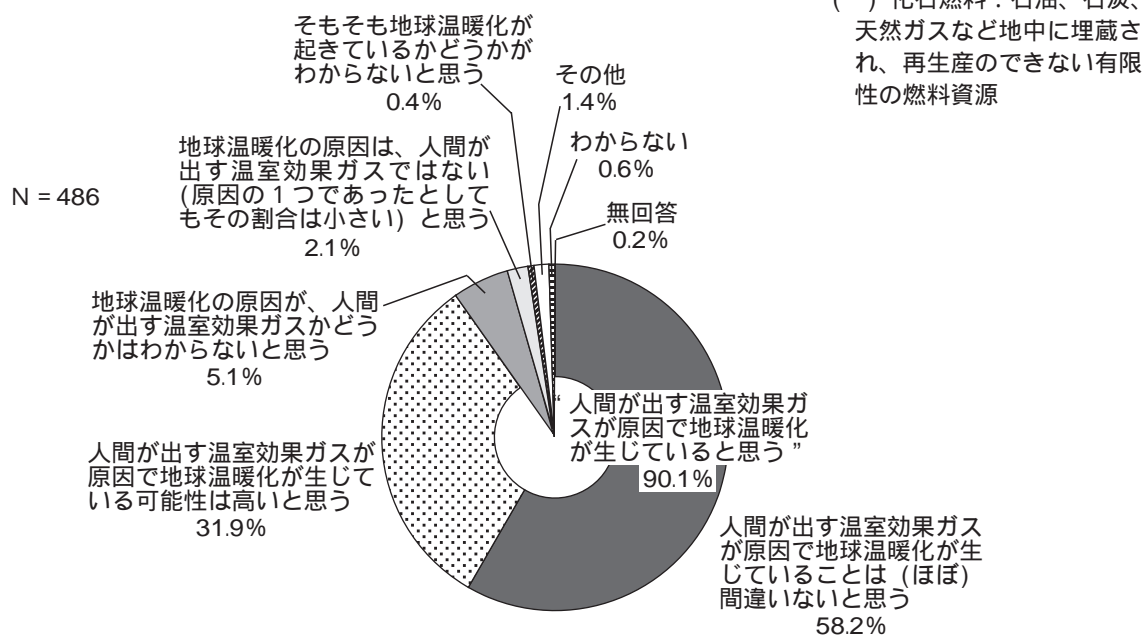
# 調査結果

## 1 地球温暖化についての感じ方

### (地球温暖化問題の認識)

問1 新聞やテレビ等で報道されているように、化石燃料(\*)の使用や森林破壊によって、大気中の二酸化炭素やメタンガスなどの「温室効果ガス」が増加し、その影響で地球の温暖化が始まっていると言われています。

あなたはこのことについてどのように思いますか。あなたの感じ方に最も近いものを選んでください。(回答は1つ)

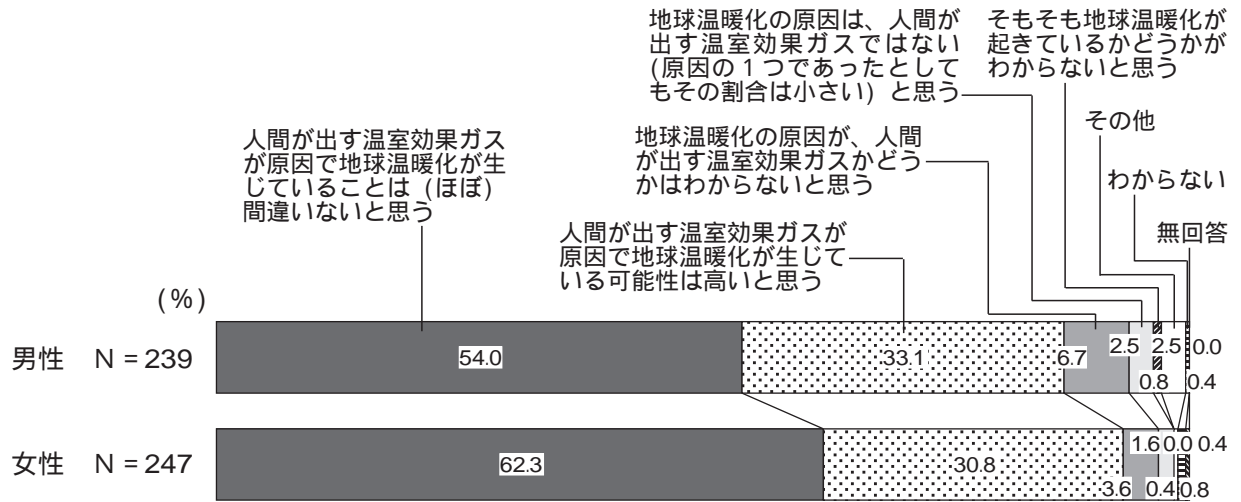


地球温暖化の原因についてどのように思うか尋ねたところ、「人間が出す温室効果ガスが原因で地球温暖化が生じていることは(ほぼ)間違いないと思う」が58.2%、「人間が出す温室効果ガスが原因で地球温暖化が生じている可能性は高いと思う」が31.9%で、これらを合わせた「人間が出す温室効果ガスが原因で地球温暖化が生じていると思う」が90.1%に対し、「地球温暖化の原因が、人間が出す温室効果ガスかどうかはわからないと思う」が5.1%、「地球温暖化の原因は、人間が出す温室効果ガスではない(原因の1つであったとしてもその割合は小さい)と思う」が2.1%などとなっている。

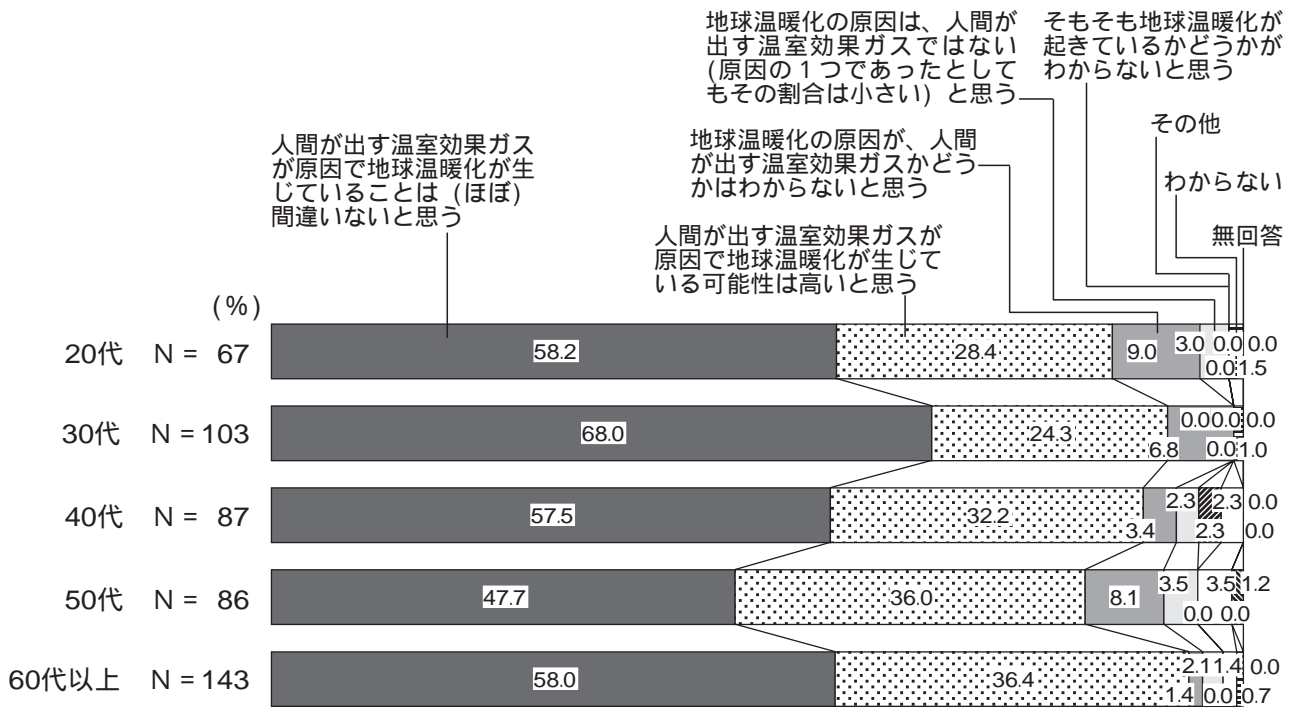
男女別にみると、「人間が出す温室効果ガスが原因で地球温暖化が生じていると思う」と答えた人の割合は女性で高くなっている。

年代別にみると、「人間が出す温室効果ガスが原因で地球温暖化が生じていると思う」と答えた人の割合は全ての年代で80%を超えている。

(男女別)



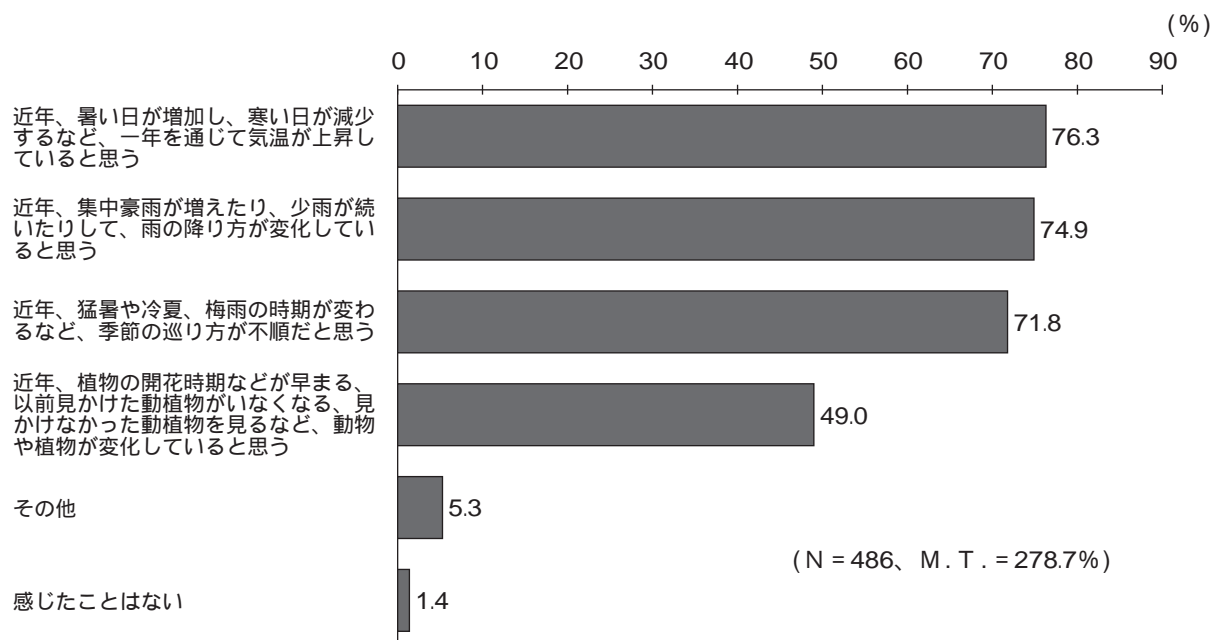
(年代別)



(日常生活での実感)

問2 近年、日本においても気候や動植物の生態が変化していると言われています。

あなたの日常生活の中で思い当たるものを選んでください。(回答はいくつでも)

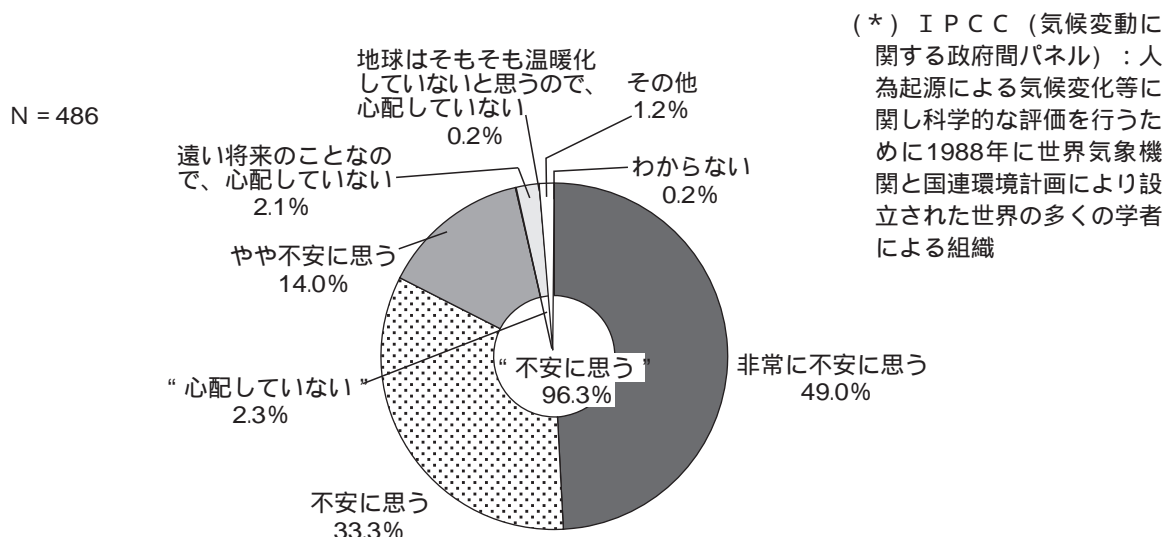


気候や動植物の生態が変化していると言われていていることについて、日常生活の中で思い当たるものを尋ねたところ、「近年、暑い日が増加し、寒い日が減少するなど、一年を通じて気温が上昇していると思う」が76.3%、「近年、集中豪雨が増えたり、少雨が続きたりして、雨の降り方が変化していると思う」が74.9%、「近年、猛暑や冷夏、梅雨の時期が変わるなど、季節の巡り方が不順だと思う」が71.8%などとなっている。

(地球温暖化への感じ方)

問3 IPCC(\*)の報告書によれば、過去100年間に地球の平均気温は0.74 上昇したとされています。今後、21世紀の終わりまでに気温はさらに上昇し、それに伴い、水不足、食糧不足、生物の種の大量絶滅、洪水被害の増加などが懸念されています。

こうした地球温暖化の予測について、あなたはどのように感じますか。(回答は1つ)



地球温暖化の予測について、どう感じているか尋ねたところ、「非常に不安に思う」が49.0%、「不安に思う」が33.3%、「やや不安に思う」が14.0%で、これらを合わせた“不安に思う”が96.3%に対し、「遠い将来のことなので、心配していない」が2.1%、「地球はそもそも温暖化していないと思うので、心配していない」が0.2%で、これらを合わせた“心配していない”が2.3%となっている。

問1～問3の結果から、ほとんどの方が地球温暖化を身近に感じ、不安に思っていることがわかりました。地球温暖化の主な原因とされる二酸化炭素は私たちの暮らしを支える社会活動のあらゆる局面から排出されるものですので、正確な情報提供や、地域を挙げた対策の推進を図っていきたいと思います。

(環境部大気環境課地球温暖化対策室)



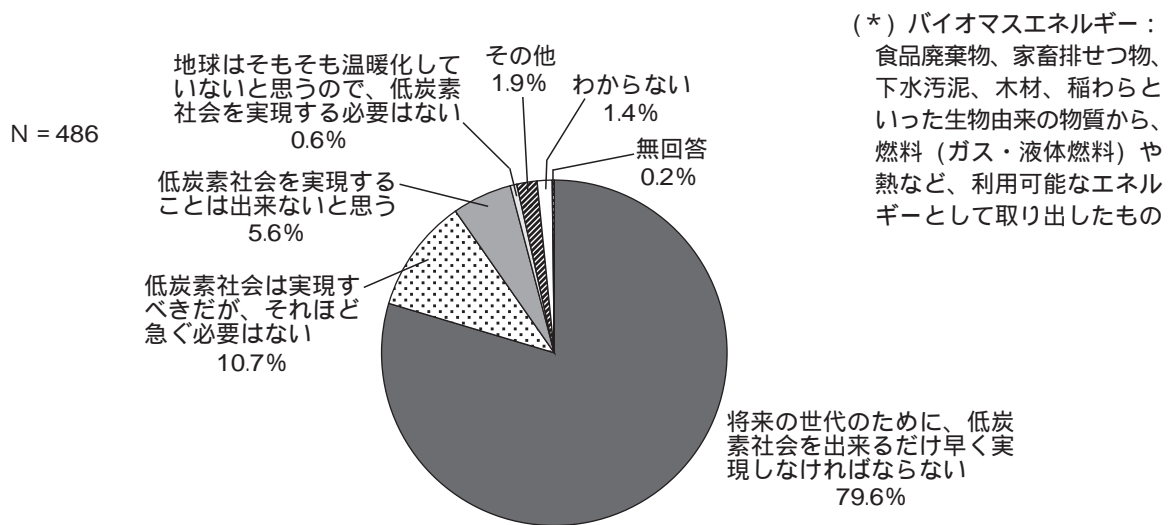
## 2 低炭素社会づくりについて

### (低炭素社会を実現させるべきか)

問4 地球温暖化問題を解決するためには、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を2050年頃までに世界で現在の半分にする必要があり、中でも、日本を含めた先進国全体では80%削減しなければならないとされています。

このため、エネルギー消費の少ない省エネ住宅や低燃費の自動車、太陽光・バイオマスエネルギー(\*)といった再生可能エネルギーを大量に導入するなどして、快適な生活を維持しながら二酸化炭素などの排出が少ない社会 (= 低炭素社会) を実現しなければならないとされています。

このことについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(回答は1つ)

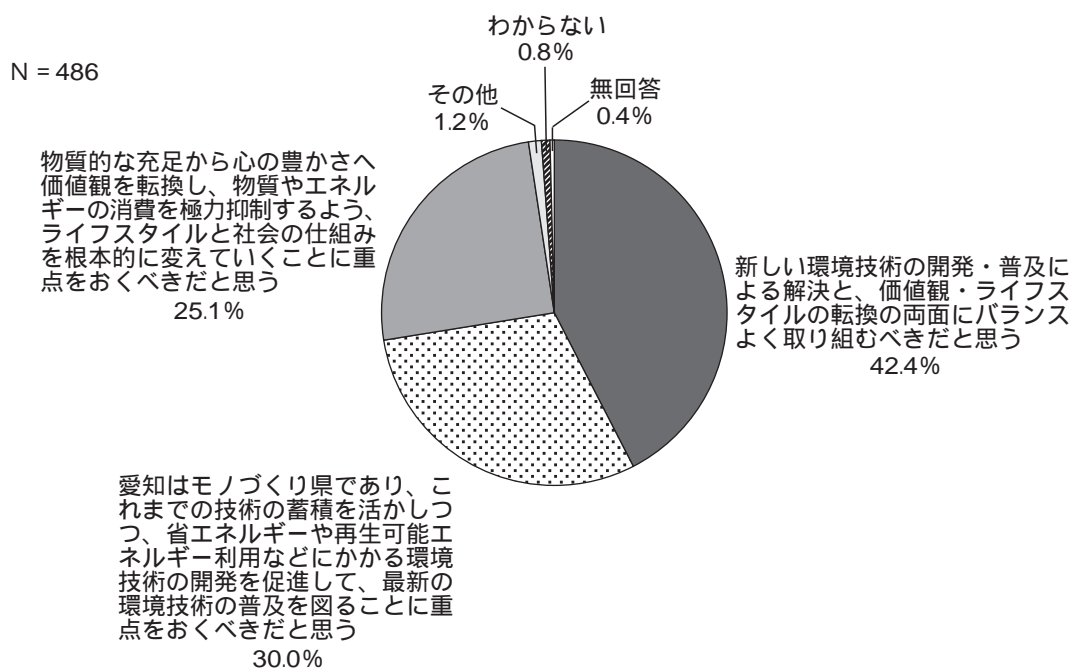


地球温暖化問題を解決するために低炭素社会を実現しなければならないとされていることについて尋ねたところ、「将来の世代のために、低炭素社会を出来るだけ早く実現しなければならない」が79.6%、「低炭素社会は実現すべきだが、それほど急ぐ必要はない」が10.7%、「低炭素社会を実現することは出来ないと思う」が5.6%などとなっている。

(低炭素社会づくりの対応方針)

問5 2050年頃までに、温室効果ガスの排出を大幅に削減し、持続可能な低炭素社会を実現するために、愛知県はどのように対応していくのがよいと思いますか。

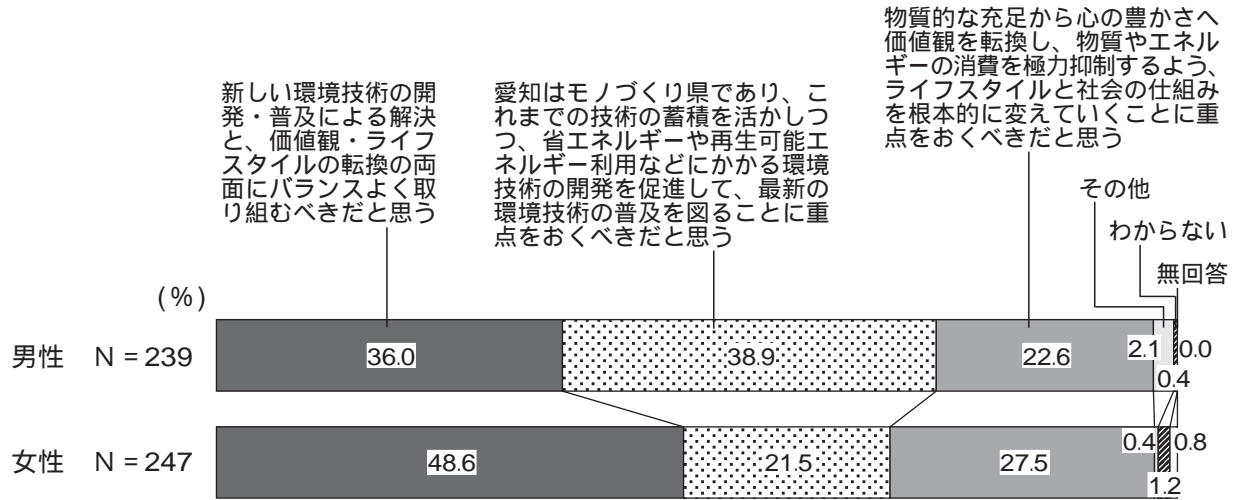
あなたの考えに最も近いものを選んでください。(回答は1つ)



温室効果ガスの排出を大幅に削減し、持続可能な低炭素社会を実現するために、愛知県はどのように対応していくのがよいかを尋ねたところ、「新しい環境技術の開発・普及による解決と、価値観・ライフスタイルの転換の両面にバランスよく取り組むべきだと思う」が42.4%、「愛知はモノづくり県であり、これまでの技術の蓄積を活かしつつ、省エネルギーや再生可能エネルギー利用などにかかる環境技術の開発を促進して、最新の環境技術の普及を図ることに重点をおくべきだと思う」が30.0%、「物質的な充足から心の豊かさへ価値観を転換し、物質やエネルギーの消費を極力抑制するよう、ライフスタイルと社会の仕組みを根本的に変えていくことに重点をおくべきだと思う」が25.1%などとなっている。

男女別にみると、男性では新しい環境技術の開発・普及を重視する人の割合が最も高く、女性では新しい環境技術の開発・普及と価値観・ライフスタイルのバランスを重視する人の割合が最も高くなっている。

(男女別)



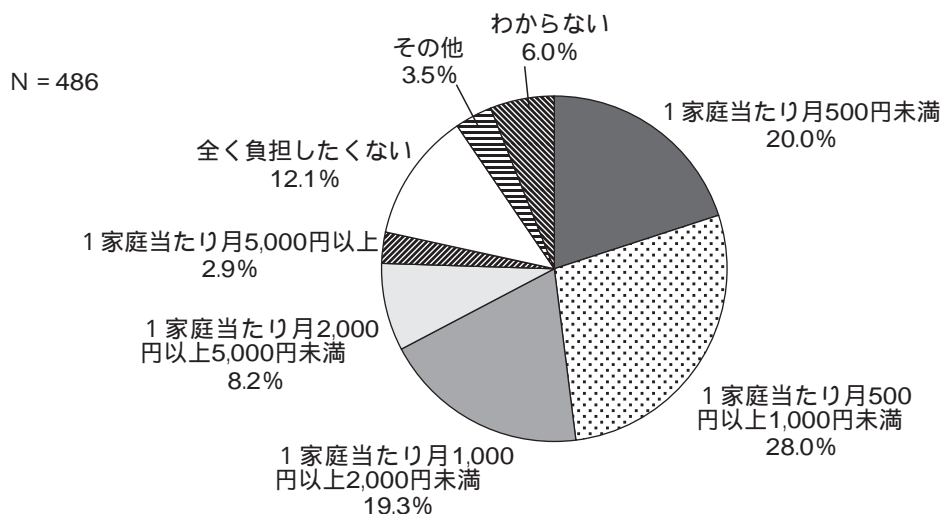
(低炭素社会実現のための家計負担)

問6 「低炭素社会」をつくるためには、割高ではあるが高性能な省エネ家電・住宅や環境に優しい自動車に買い換えたり、住宅に太陽光発電を設置したり、発電所での対策費用をまかなうために電力料金が値上げされるなど、家計の負担が増える側面があります。

一方、家電、住宅、車などが省エネ型になることなどにより、電気、ガス、灯油、ガソリンの使用量を減らせるなど、家計の負担が減る側面もあります。

「低炭素社会」実現のために、あなたはどの程度なら家計の負担が増えてもよいと考えますか。

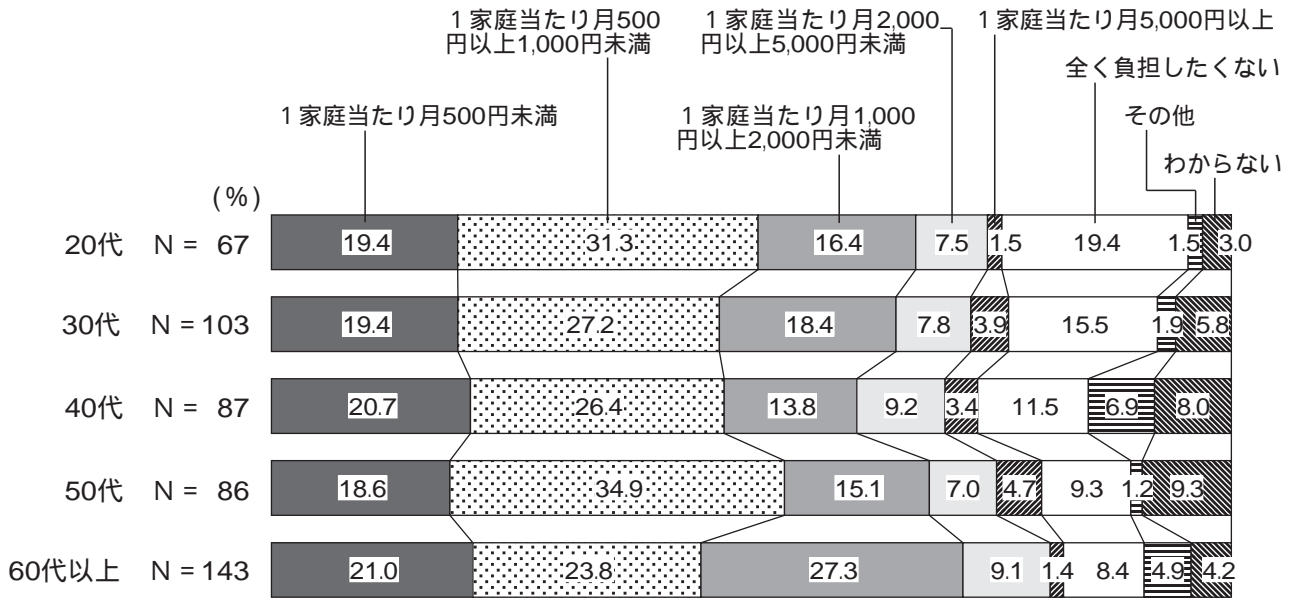
(回答は1つ)



「低炭素社会」実現のためにどの程度なら家計の負担が増えてもよいかを尋ねたところ、「1家庭あたり月500円未満」が20.0%、「1家庭あたり月500円以上1,000円未満」が28.0%、「1家庭あたり月1,000円以上2,000円未満」が19.3%、「1家庭あたり月2,000円以上5,000円未満」が8.2%、などとなっている。一方、「全く負担したくない」は12.1%となっている。

年代別にみると、「全く負担したくない」と答えた人の割合は年代が高齢になるほど低くなっている。

(年代別)



問4～問6の結果から、約8割の方が地球温暖化問題の解決を先送りすべきではないと考えていること、また、多くの方が新しい環境技術の開発・普及と価値観やライフスタイルのバランスを指摘され、さらに、経済的な負担についても額の多少はありますが多くの方に認識いただいていることがわかりました。こうした県民の皆様の意識の高さが、エコカーや太陽光発電で日本一という現状につながっていると考えられます。

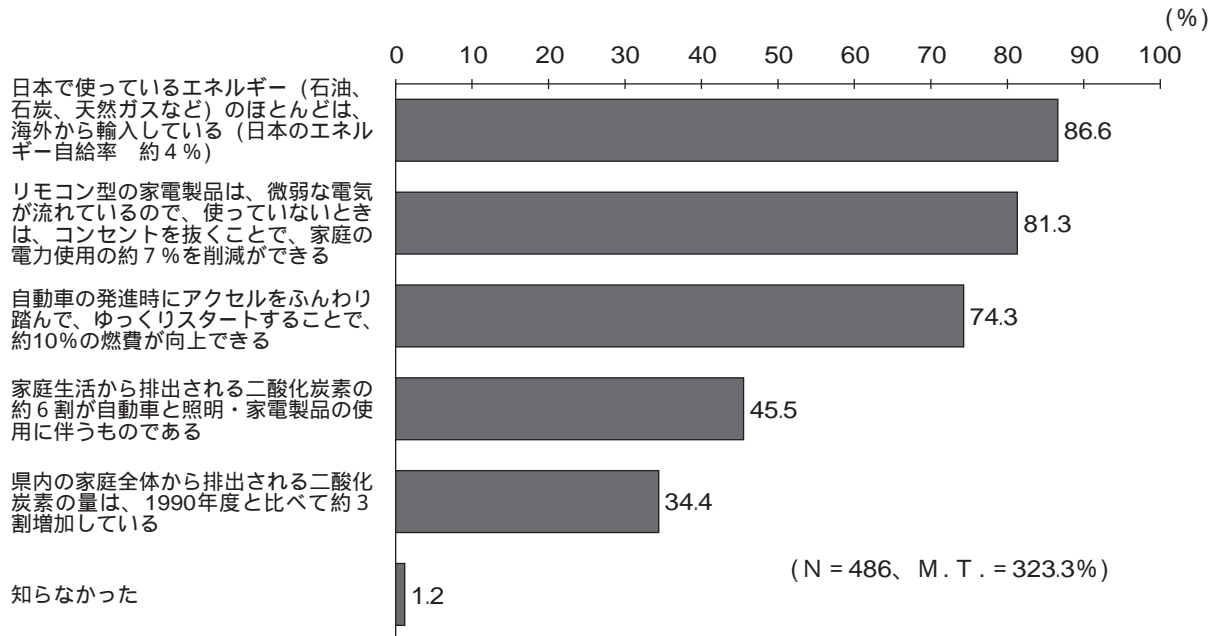
(環境部大気環境課地球温暖化対策室)

### 3 今後必要な施策について

#### (家庭のエネルギーに関する知識・理解)

問7 地球温暖化問題は、私たちの暮らし方やエネルギーの使い方と深く関わっています。地球温暖化を防止するためには、こうしたことを知ることがはじめての一步だと考えられます。

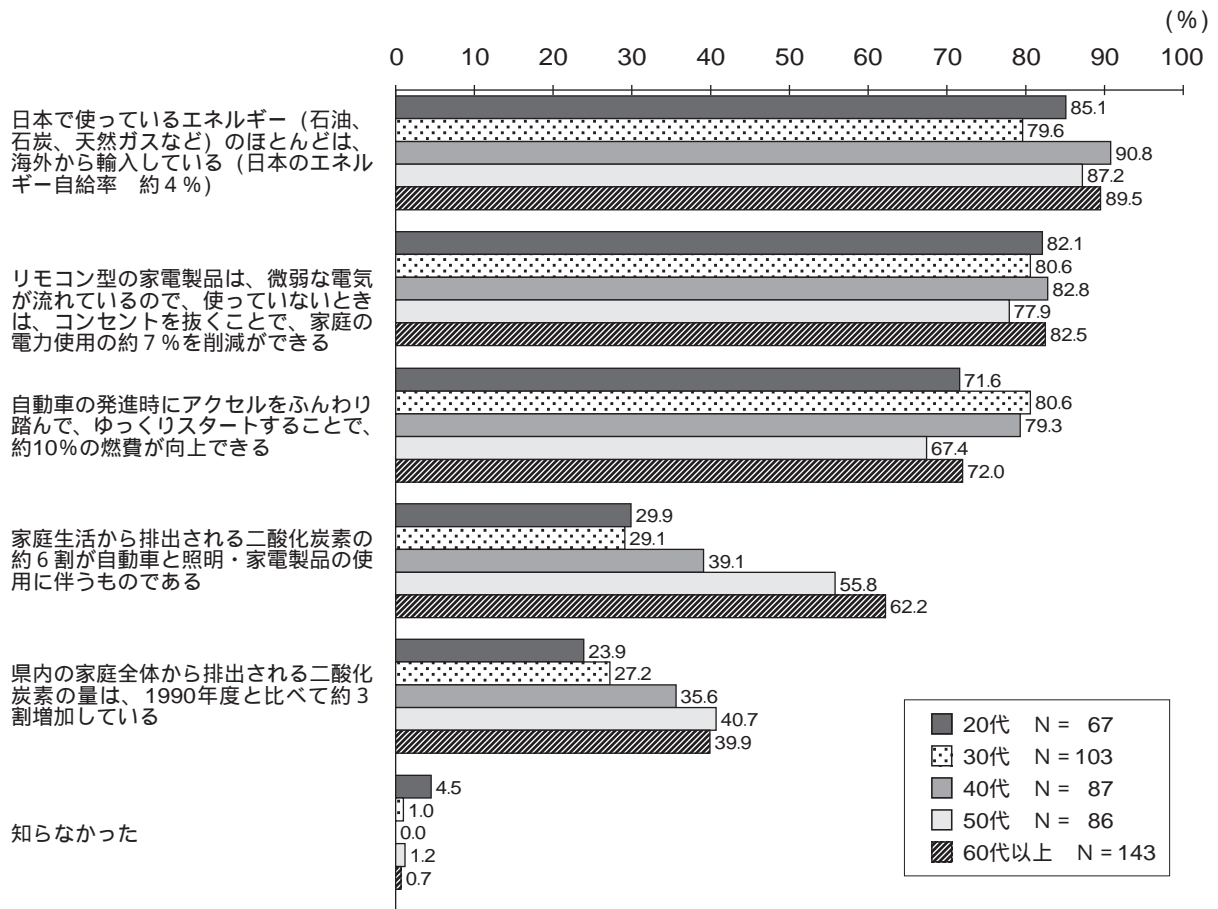
次のうち、あなたをご存知のもの（数値はご存知でなくても、傾向をご存知のものを含みます）を選んでください。（回答はいくつでも）



家庭のエネルギーに関して知っている項目を尋ねたところ、「日本で使っているエネルギー（石油、石炭、天然ガスなど）のほとんどは、海外から輸入している」が86.6%、「リモコン型家電製品は、微弱な電気が流れているので、使っていないときは、コンセントを抜くことで、家庭の電力使用の約7%を削減ができる」が81.3%、「自動車の発進時にアクセルをふんわり踏んで、ゆっくりスタートすることで、約10%の燃費が向上できる」が74.3%などとなっている。

年代別にみると、「家庭生活から排出される二酸化炭素の約6割が自動車と照明・家電製品の使用に伴うものである」及び「県内の家庭全体から排出される二酸化炭素の量は、1990年度と比べて約3割増加している」と答えた人の割合は概ね年代が高くなるほど高くなっている。

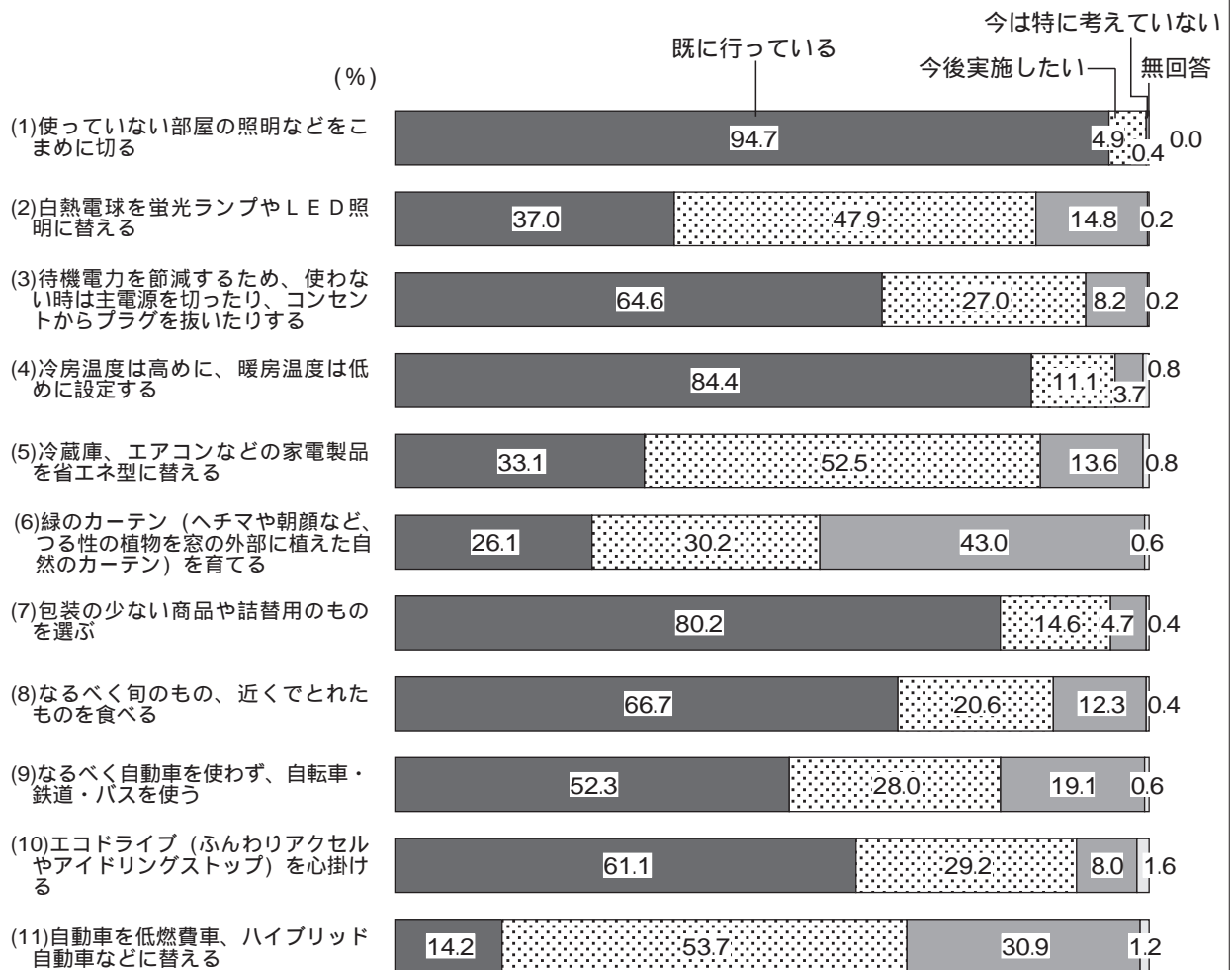
(年代別)



(家庭での地球温暖化対策の実施状況)

問8 あなたのご家庭で地球温暖化対策として既に行っていることは、どのようなことがありますか。

また、今後実施したいと思う地球温暖化対策はどれですか。次の中から、あてはまるものを選んでください。(回答は(1)～(11)の場合ごとに、それぞれ1つ)



家庭で地球温暖化対策として既に行っていることは何かを尋ねたところ、「(1)使っていない部屋の照明などをこまめに切る」が94.7%、「(4)冷房温度は高め、暖房温度は低めに設定する」が84.4%、「(7)包装の少ない商品や詰替用のものを選ぶ」が80.2%などとなっている。

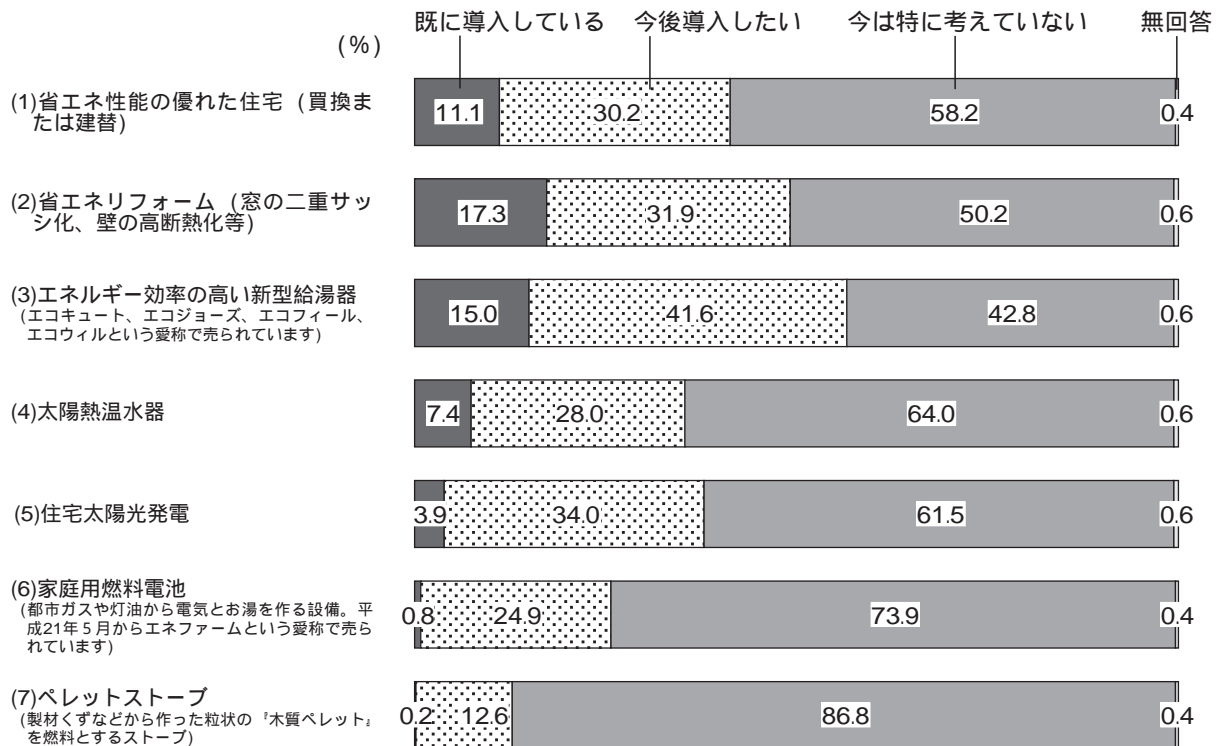
一方、今後実施したいと思う地球温暖化対策では、「(11)自動車を低燃費車、ハイブリッド自動車などに替える」が53.7%、「(5)冷蔵庫、エアコンなどの家電製品を省エネ型に替える」が52.5%、「(2)白熱電球を蛍光灯やLED照明に替える」が47.9%などとなっている。



(家庭における省エネ改修等の意向)

問9 低炭素社会実現のためには、日常的な環境配慮だけでなく、住宅そのものを省エネ型に変えたり、太陽光などの再生可能エネルギーを導入したりすることが必要となります。

次のうち、あなたが導入している、あるいは、今後導入したいと思うものはどれですか。当てはまるものを選んでください。(回答は(1)~(7)の場合ごとに、それぞれ1つ)



家庭における省エネ改修等の意向について尋ねたところ、既に導入している取組は、「(2)省エネリフォーム」が17.3%、「(3)エネルギー効率の高い新型給湯器」が15.0%、「(1)省エネ性能の優れた住宅」が11.1%、などとなっている。一方、今後導入したい取組では、「(3)エネルギー効率の高い新型給湯器」が41.6%、「(5)住宅太陽光発電」が34.0%、「(2)省エネリフォーム」が31.9%などとなっている。

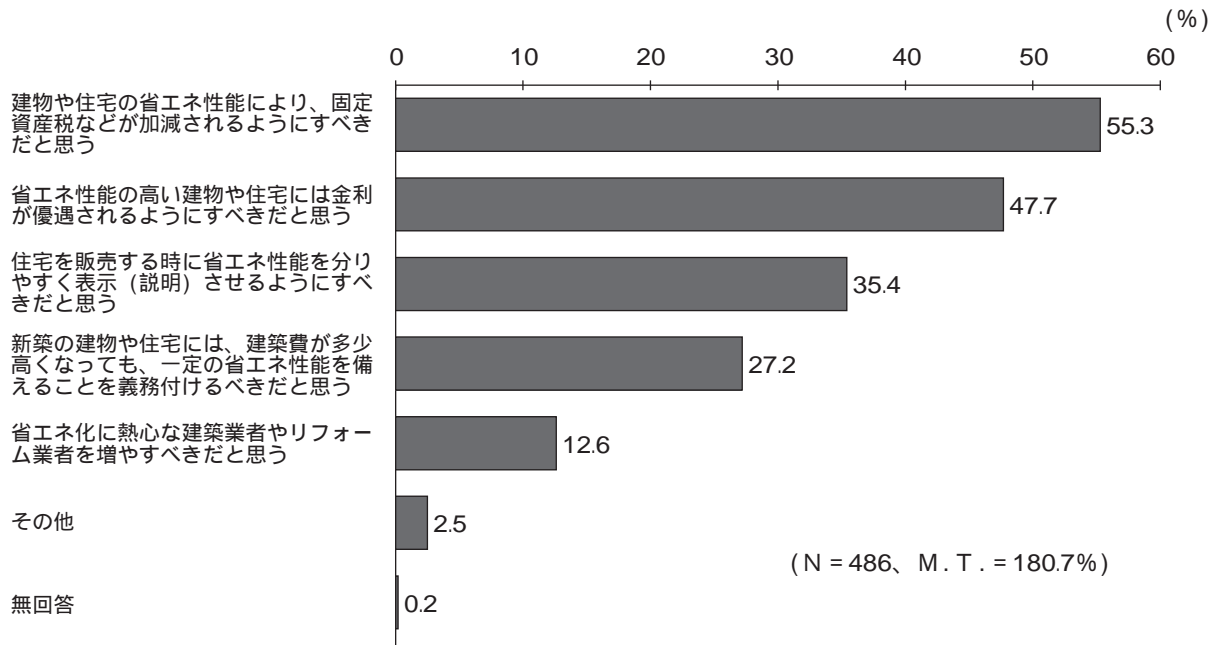
問7~問9の結果から、家庭のエネルギーの現状などについては、多くの方が正確な理解をされており、また、電気をこまめに切る、エコドライブを心掛けるなど、費用のかからない地球温暖化対策はかなり普及していることがわかりました。一方、省エネ家電やエコカーへの切り替え、住宅の省エネ改修などの費用がかかる対策については、「今後実施(導入)したい」という回答が多く、今後、費用のかかる対策をどのように促進していくかが大きな課題であると認識しました。

(環境部大気環境課地球温暖化対策室)

### (建物や住宅の省エネ化)

問10 2050年頃までに温室効果ガス排出量の大幅削減を実現するためには、建物や住宅をなるべく早く、エネルギーの消費量の少ない省エネ型に替えていくことが重要です。

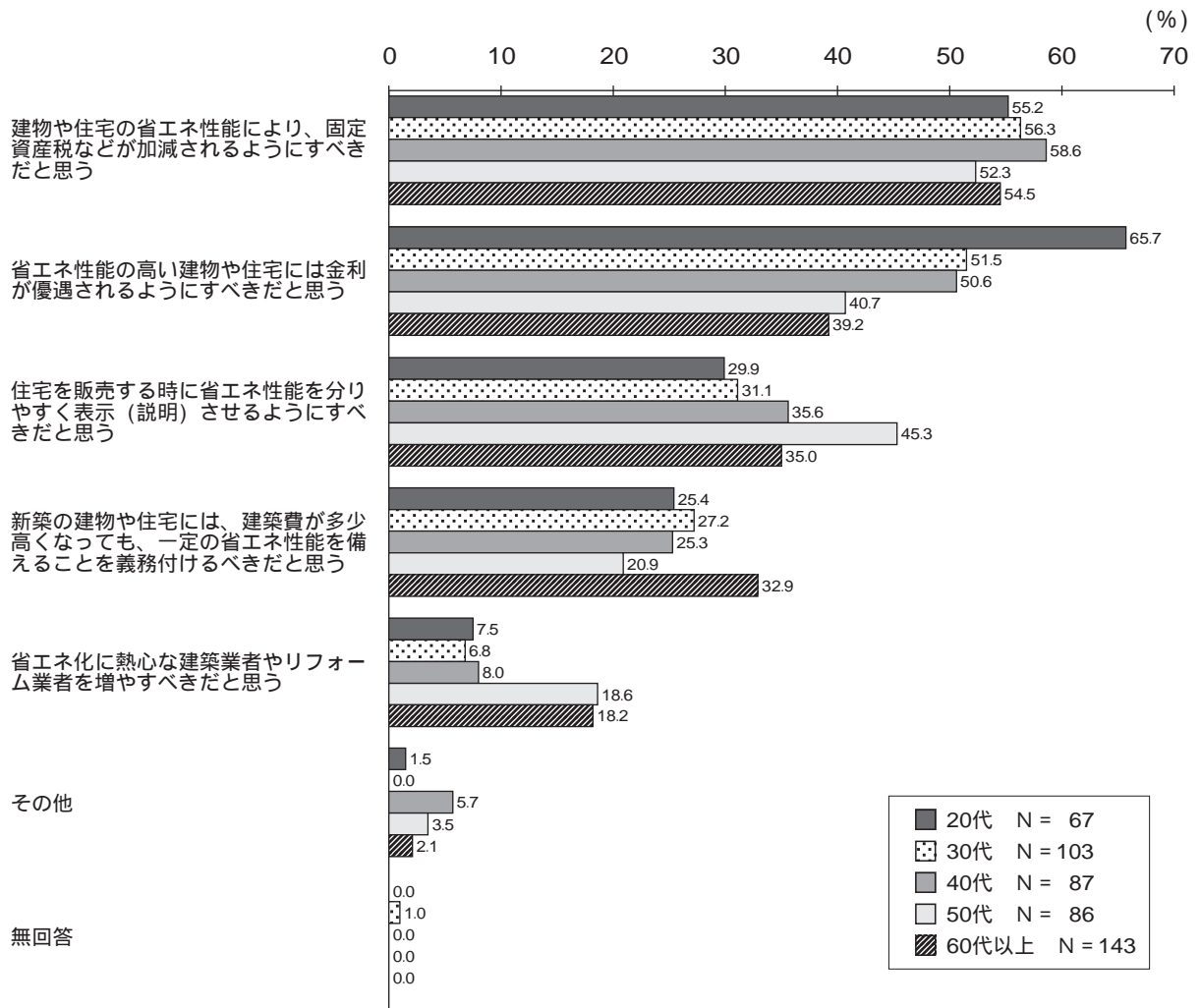
これを実現するためには、どのようにするのが最も有効だと思いますか。(回答は2つ以内)



建物や住宅をなるべく早く、エネルギーの消費量の少ない省エネ型に替えていくためには、どのようにするのが有効か尋ねたところ、「建物や住宅の省エネ性能により、固定資産税などが加減されるようにすべきだと思う」が55.3%、「省エネ性能の高い建物や住宅には金利が優遇されるようにすべきだと思う」が47.7%、「住宅を販売する時に省エネ性能を分かりやすく表示(説明)させるようにすべきだと思う」が35.4%などとなっている。

年代別にみると、「省エネ性能の高い建物や住宅には金利が優遇されるようにすべきだと思う」と答えた人の割合は年代が若くなるほど高くなっている。

(年代別)

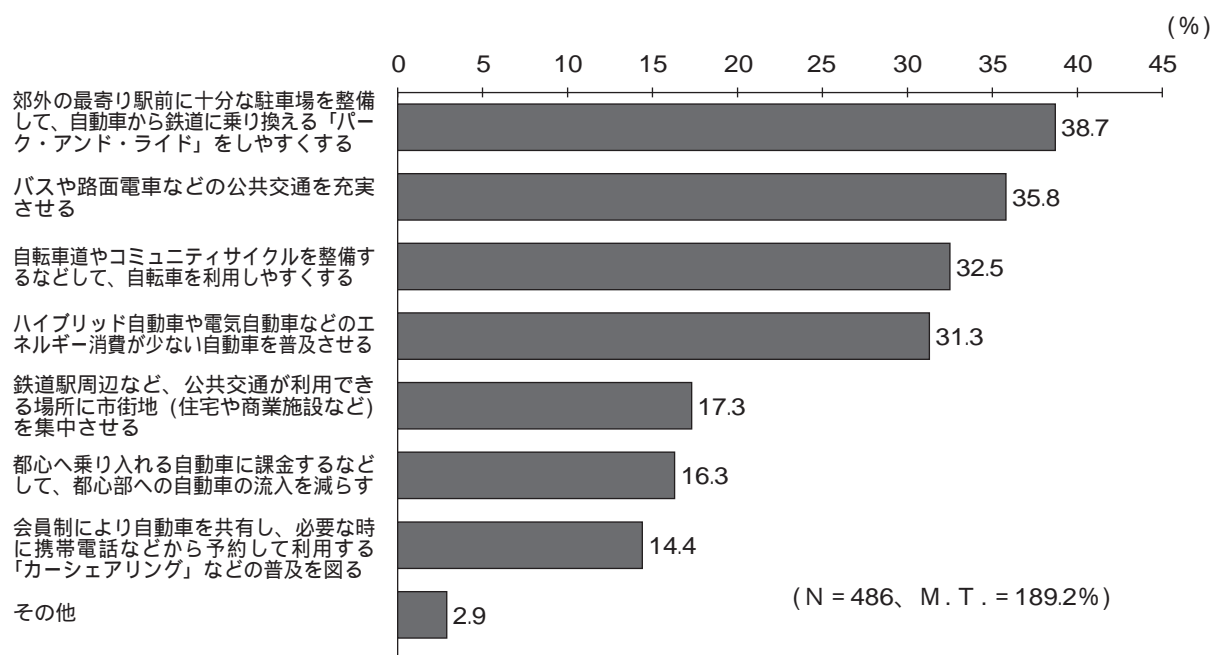


## (低炭素の交通)

問11 交通部門から出る温室効果ガスは、わが国の排出量全体の約20%を占め、そのほとんどは自動車からです。

現在、ハイブリッド自動車や電気自動車などの次世代自動車の開発が進められていますが、低炭素社会においては、なるべく自動車を使わない交通体系を実現することも重要だと考えられます。

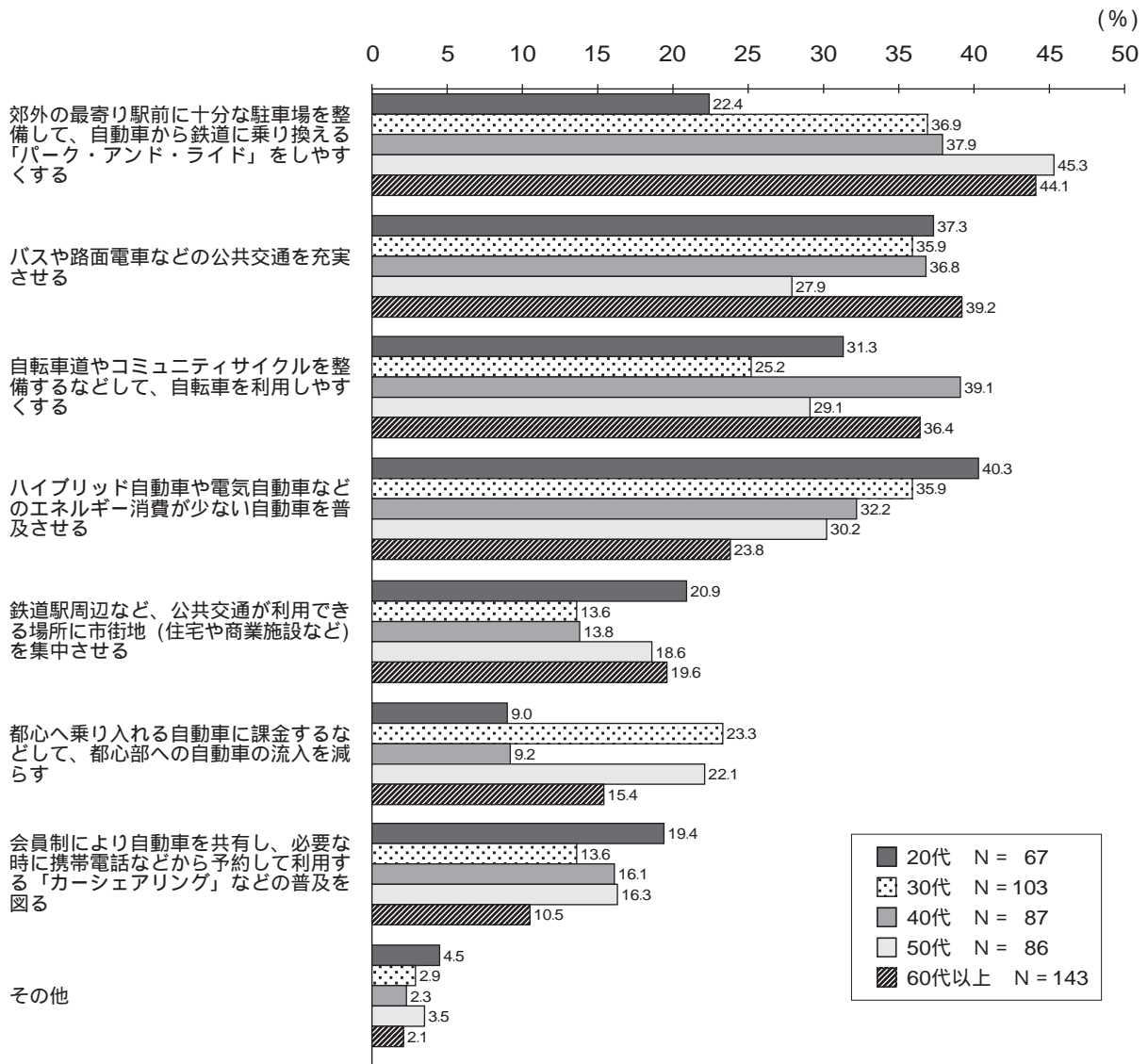
将来、交通部門の温室効果ガス排出を大幅に削減するためには、どのようにするのが効果的だと思いますか。(回答は2つ以内)



交通部門の温室効果ガス排出を大幅に削減するためにはどのようにするのが効果的だと思うか尋ねたところ、「郊外の最寄り駅前に十分な駐車場を整備して、自動車から鉄道に乗り換える『パーク・アンド・ライド』をしやすいとする」が38.7%、「バスや路面電車などの公共交通を充実させる」が35.8%、「自転車道やコミュニティサイクルを整備するなどして、自転車を利用しやすいとする」が32.5%、「ハイブリッド自動車や電気自動車などのエネルギー消費が少ない自動車を普及させる」が31.3%などとなっている。

年代別にみると、「郊外の最寄り駅前に十分な駐車場を整備して、自動車から鉄道に乗り換える『パーク・アンド・ライド』をしやすいとする」と答えた人の割合は年代が高い層で高く、逆に「ハイブリッド自動車や電気自動車などのエネルギー消費が少ない自動車を普及させる」と答えた人の割合は年代が若くなるほど高くなっている。

(年代別)

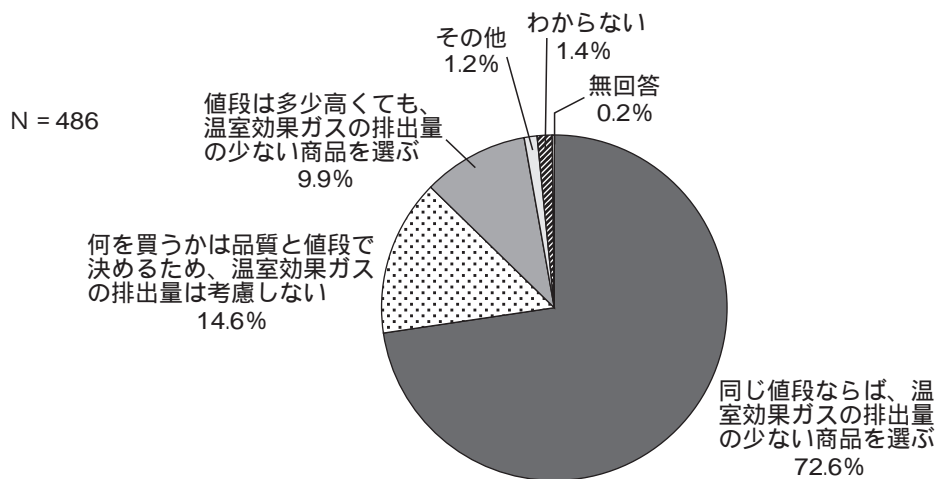


(カーボンフットプリント)

問12 商品の製造、使用、廃棄など、それぞれの段階で排出される温室効果ガスの合計量（カーボンフットプリントと呼ばれます。）を商品に表示しようという動きがあります。

こうした表示がなされた場合、あなたの商品選択にどのように影響すると思いますか。

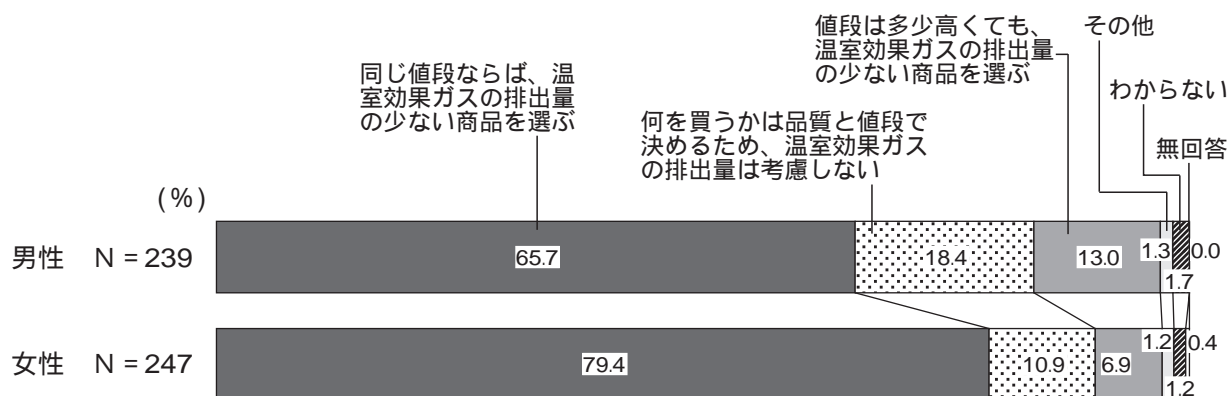
(回答は1つ)



商品の製造、使用、廃棄など、それぞれの段階で排出される温室効果ガスの合計量が商品に表示された場合、商品選択にどのように影響すると思うかを尋ねたところ、「同じ値段ならば、温室効果ガスの排出量の少ない商品を選ぶ」が72.6%、「何を買うかは品質と値段で決めるため、温室効果ガスの排出量は考慮しない」が14.6%、「値段は多少高くても、温室効果ガスの排出量の少ない商品を選ぶ」が9.9%などとなっている。

男女別にみると、「同じ値段ならば、温室効果ガスの排出量の少ない商品を選ぶ」と答えた人の割合は女性で高くなっている。

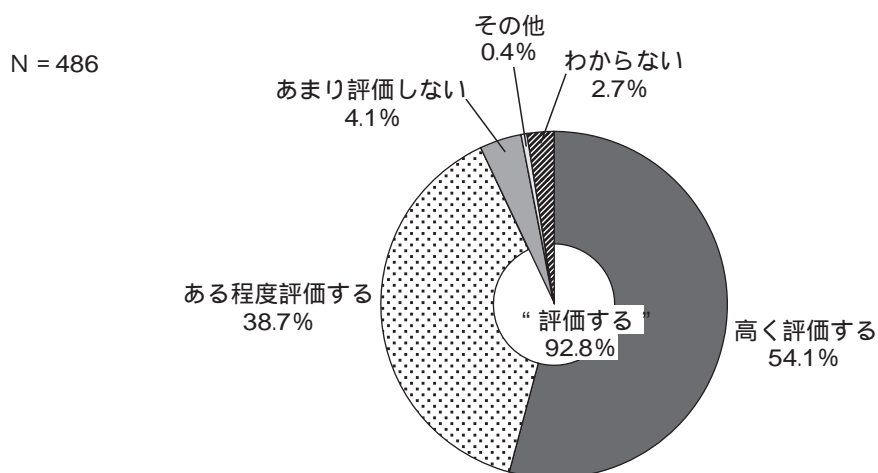
(男女別)



(カーボンオフセットに対する評価)

問13 事業活動等から排出される二酸化炭素を、太陽光や風力といった再生可能エネルギー発電や森林整備への投資など、二酸化炭素の削減活動により埋め合わせる「カーボンオフセット」という考え方があります。

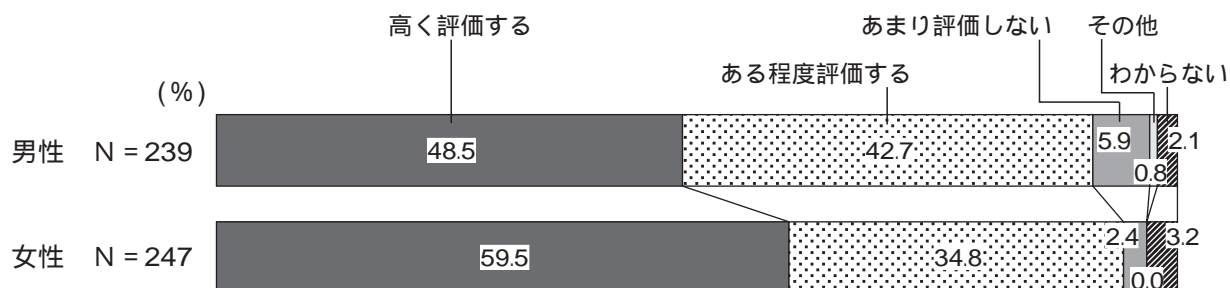
この「カーボンオフセット」の活動を行っている企業が少しずつ増えていますが、こうした企業の取組に対して、あなたはどのように感じますか。あなたの感じ方に最も近いものを選んでください。(回答は1つ)



「カーボンオフセット」の活動を行っている企業の取組に対してどのように感じるか尋ねたところ、「高く評価する」が54.1%、「ある程度評価する」が38.7%で、これらを合わせた“評価する”が92.8%に対し、「あまり評価しない」は4.1%となっている。

男女別にみると、「高く評価する」は女性で高くなっている。

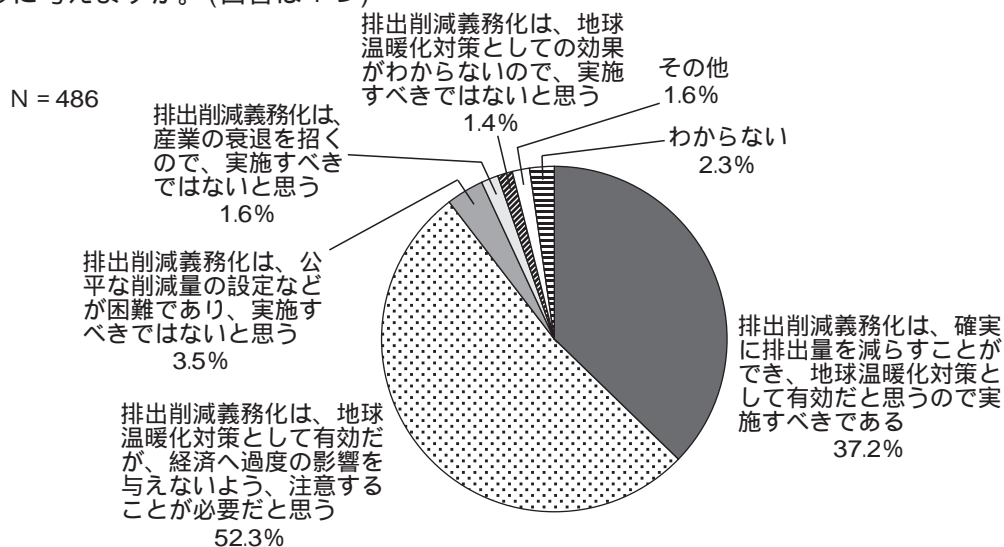
(男女別)



### (温室効果ガス排出削減の義務化)

問14 温室効果ガスの排出を減らすためには、排出量の多い大企業などに削減を義務付けることが有効ではないかという意見があります。

一定規模以上の企業に対して、温室効果ガスの削減を義務化することについて、あなたはどのように考えますか。(回答は1つ)



一定規模以上の企業に対して、温室効果ガスの削減を義務化することについて尋ねたところ、「排出削減義務化は、確実に排出量を減らすことができ、地球温暖化対策として有効だと思うので実施すべきである」が37.2%、「排出削減義務化は、地球温暖化対策として有効だが、経済へ過度の影響を与えないよう、注意することが必要だと思う」が52.3%であるのに対し、「排出削減義務化は、公平な削減量の設定などが困難であり、実施すべきではないと思う」が3.5%、「排出削減義務化は、産業の衰退を招くので、実施すべきではないと思う」が1.6%、「排出削減義務化は、地球温暖化対策としての効果がわからないので、実施すべきではないと思う」が1.4%となっている。

問10～問14の結果から以下のことがわかりました。

- ・省エネ住宅の普及策については経済的な誘導策への支持が高いこと。
- ・低炭素の交通については、エコカーの普及よりもパーク・アンド・ライドなどの公共交通の利用促進を支持する割合が高いものの、若い年代ではエコカーの普及を支持する割合の方が高いこと。
- ・「カーボンフットプリント」や「カーボンオフセット」といった新たな仕組みについても多くの支持があること。
- ・温室効果ガス排出削減の義務化については、地球温暖化対策として有効と支持する割合が多いものの、同時に経済への影響を注意すべきという意見が過半数を占めていること。

個別分野の対策へのこうしたご意見についても、今後の温暖化対策を検討する中で参考にさせていただきます。  
(環境部大気環境課地球温暖化対策室)



## 4 自由意見

問15 本県の地球温暖化（気候変動）対策について、ご意見・ご提案があれば、自由にお書きください。

地球温暖化（気候変動）対策について、自由に意見を記入していただいたところ、293件の意見が寄せられた。それらを大別すると次表のとおりであり、以下、その意見の要旨をいくつか例示した。

項 目	件 数
(1) 県民の意識、ライフスタイルの変革について	6 1
(2) 公共交通の利便性の向上、自動車交通について	3 6
(3) 地球温暖化対策への負担軽減、公的な支援について	3 4
(4) 県（行政）に期待する取組について	3 4
(5) エコライフの実践について	1 8
(6) ヒートアイランド対策、緑化の推進について	1 8
(7) 企業における対策について	1 5
(8) 再生可能エネルギーの導入拡大について	1 4
(9) 地球温暖化の不安について	1 2
(10) 温室効果ガス排出に対する課税や規制について	9
(11) 国際的な取組や国の取組について	9
(12) 資源の節約について	8
(13) その他	2 5
合 計	2 9 3

### (1) 県民の意識、ライフスタイルの変革について

人々が温暖化に危機感がないように感じる。TV、新聞など企業・学校・団体など通じ、もっと人々の目や耳に入るようにPRしてほしい。誰もが危機感を持つことが、行動を起こす第一歩だと思う。また、子供たちの学校生活の中でも、温暖化対策への取組をカリキュラムに導入していくことを考えてもらいたい。

企業も各個人も出来るところから生活を見直し、どうしたら温暖化を抑制でき、未来の子供達にとって素晴らしい地球を残せるかを考え、行動していくより他にない。それには1つ1つ、どれがベストかベストに近いかを提案しつづける国や地方であるべきだと思うので、CMや新聞で粘り強く訴えつづけて欲しい。

各家庭での対策は、家族の人数や年齢、所得等によって、できることとできないことがあると思う。家族構成や所得、住宅の状況などのパターンに合う省エネ対策を表などで示すと、取組の目安となるのではないか。

頭では地球温暖化について自分のできることからと思っているが、いざとなると今回はいいや、次回からとする場面がある。個々人の意識を高める必要があると思う。

何かをしたいと思っているが、何をどうしていいのかと思う人が多いと思う。エコバッグが浸透したように身近に出来ることで行政が音頭をとって多人数でやれば変わることもあると思う。ぜひ頑張ってもらいたい。

もっと手軽にエコ生活ができる知恵など専門家の方々と話し合いアイデアを出してほしい。

県のパンフレットはモニターをするまで一度もみたことがない。「CO<sub>2</sub>を減らす方法21ヶ条」だけを一枚のチラシにして、より多くの県民一人一人の意識を「CO<sub>2</sub>を減らす方法」に対して高める活動が必要。

地球という大きな物差しに対して社会全体また家庭など個人単位でも考える必要がある。将来の子孫にむけて破滅していく道をすすんでいる気がしてならない。自然の摂理というものをもっと大事にしていくべきだ。環境に配慮した生活を送り、自然にさからわずに生きていくことが必要。自分の世代がよければ良いという考えの人が多すぎる。

環境問題については、いずれ社会を担う次世代の（今の）子供たちに広く教育することも大切である。価値観やライフスタイルの転換は特に幼いころからの繰り返しによって可能になっていくものと考えている。

私の子供のころは皆が貧しく質素な生活だった。昭和30年代にテレビでアメリカのホームドラマで見た夢のような生活を今はしている。その豊かさが私達の心身と地球を蝕んだと思う。もう一度原点に戻り価値観を考え直し、ライフスタイル及び社会の仕組みを変えていくことが必要ではないかと思う。

## (2) 公共交通の利便性の向上、自動車交通について

名古屋市は公共交通機関が十分に整備されているのに、自動車を利用する人が多い。自転車が安全に通行できる道路を整備し、自動車の使用を減らさなければならないと思う。自動車産業が地域経済の要の県であるから、自動車を愛用したい人は多いだろうが、今まさにその利用を抑える方向に県民一人ひとりがライフスタイルを転換する時期である。

自動車 自転車あるいは自動車 公共交通機関への乗り換えを推奨するのであれば、まず自転車道の整備、公共交通機関の利便性の向上をすすめることが必要。現状は段差のある歩道を歩行者の迷惑にならないように、自転車で通行する。運行本数が少なく思わず利用をあきらめてしまう公共交通。これでは自転車利用・公共交通機関の利用は増えない。

多少不便があっても車依存の社会から脱却し、かつての鉄道・バス等の公共交通の充実、復活が

急がれ、高齢者にもやさしく、駅前商店街も賑わい人と人のつながりも出来る。車、郊外型の店舗は人々の結びつきを分断した。身の丈に合った生活に戻るべき。

空洞化しつつある商店街の再開発等でできるだけ駅の近くに人を集めるような施策を行い、車の利用を減らすことも必要。

その場所に行くともあれこれも済ませられる街づくりができるとうれしい。公共交通機関までは遠いので、電気自動車も考えられる。補助があるとありがたい。

バス停の駐輪場などが設置してもらえないなど細かな交通事情、地域事情の把握も県で行えば公共交通機関の利用状況も変わってくると思う。郊外の自治体はほとんどの人が自家用車で通勤しているため公共交通機関への関心や利用の不便さがわからないと思う。

公共交通を充実させるとともに料金の値下げにより、公共交通をより身近なものにすることで自動車のエネルギー消費を下げる。エコカーへの減税により、消費者の購入意欲を促す。

自転車の活用促進をもっと大々的に実行してほしい。名古屋市内で、自転車専用道路を、一部作りつつあるが各市町村においても促進策（自転車安全策、歩道との区別、自転車専用道路）をして欲しい。

公共交通に無料で乗れるとなれば多くの人々がバスや電車で移動するようになると思う。広告を増やす、サポーター制度をつくるなど財源を確保して無料化してほしい。環境の観点からだけでなく、高齢者の方々も格段に暮らしやすくなると思う。

徒歩圏内である程度の都市生活が送れるような都市計画に変えていく必要がある。（今後高齢化もすすむのでお年寄りにも環境にも優しい街づくりをしていかないと。エコカーでも車中心はかわらないからエコカーにはあまり重点を置かないほうがいい。）

都心部への乗り入れには絶対に課金すべきだと思う。バス、地下鉄の料金値下げも必要。収支項目の見直しをして、形の上で、赤字にならない方法があると思う。

トラック輸送から鉄道輸送への利用促進（500km以上の輸送は鉄道を利用しないと課税を行い、モーダルシフトを推進させる）

アイドリングストップの交通ルールを守るようにしてほしい。

愛知県は自動車大国なので、どこよりも省エネ自動車・電気自動車などの開発に力を入れ、次世代自動車先進国として名をあげてほしいと思う。

自動車のハイブリッド化、省燃費化が進むように、税制優遇を国の期限後に県が引き続き実施していくと、愛知県の経済活性化と環境と両方に効果があると思う。

愛知県所有の自動車を、積極的に、ハイブリッドカー・電気自動車へ買換えて、低炭素社会を先導してもらいたい。

### (3) 地球温暖化対策への負担軽減、公的な支援について

家庭では今はまだエコの為にお金を払う気にはなれないが、お金を掛けずエコにつなげようと思

う。

省エネのものを買ったり替えたりすることも大切だが、それができるのは一部の人たちだと思う。

企業へ義務を課しても一般家庭への義務を強制してはいけない。ソーラーパネル等に大幅な補助を出す等すべきで、経費を個人の負担にさせれば誰も協力しないであろう。企業には研究費、個人には補助金を。

温室効果ガスの排出削減は必要だと思うが、過度な期待と強制的な行動は考慮する必要があると思う。

まず、身近なところから始めようと思う。何にしても、コストがかかり過ぎては始めたくても始められないのではないか。

家庭内でも少しずつではあるが、取組を実施している。但し費用が掛かる事や負担が大きいものに関しては限界があるため、県が積極的に取組み、そういった活動に協力していきたい。

太陽熱温水器を20年ほど前に設置したが、助成措置として低利融資しかなく、恩恵がなかった。今後普及が進むよう税法の優遇措置を検討されたい。

温暖化については、大変興味を持っているが、太陽光パネルも高価であるし、現状使用可能な電気器具などをすぐに買い替えるというのも大変である。色々な意味で補助金の確立とかメリットが多くある様にすれば良い方向に向かっていくのではないかと思う。

今後家を建てる予定があるので、省エネ住宅についてはとても興味がある。しかし、それを実施するには多大な出費が伴うこともあり、金利や税金などを優遇する措置があれば、私共のみならず、多くの人が省エネ住宅に移行しやすくなるのではないか。

環境は大切であるが、理想と現実のすり合わせが大切である。環境配慮が、会社経費削減、家庭生活費削減に直結するのなら、誰もが合意するが、経費増大・税金増につながるようなら反対であろう。

低炭素社会実現のためには、県民の意思統一が不可欠であり、一部の人間の努力だけで実現することは絶対できないと思う。県民が取り組みやすい環境整備を積極的に行ってほしい。やはり、ネットワークになってくるのは金銭的な問題になってくると思う。(エコカーや省エネリフォームなど)

持ち家ならば自分の意志で出来るが、賃貸住宅だとそういうわけにはいかない。これらの状況なども緩和してくれるともう少し普及すると思う。

ハイブリッド自動車や家庭用燃料電池に替えられたらいいが、金額が高く手が届かない。国が負担をして国民全員が替えられるようにしないと、地球温暖化が止まるとは思えない。

県として温暖化防止のこういった取組に(例えば太陽光発電に)どのぐらい補助金を出すのか、具体的に提示しないと単なるお題目を唱えている役所仕事に終わりそう。

#### (4) 県(行政)に期待する取組について

今は不確かであっても、わかった時には手遅れということもある。「心配しすぎ」ということは、

危機管理にはない。百年に一度の自然災害にも対応していく行政が、この問題で手をこまねいているのが不思議である。

愛知県は他県に比べ、製造業が県産業に占める割合が高いので、温室効果ガスの排出削減には格段に力を入れていくべきだと思う。

地球温暖化対策は、並大抵なことでは達成できるはずがない。常識を超えた犠牲をともに負いながら人類共通の悲願として達成しなければ我々に未来はない。経済界は目の前に利益にこだわり抵抗するであろうが温暖化対策には、従来には考えられなかった新しい経済的需要が生ずる可能性があり、算盤は整合するものと思料する。

クールビズはとても良い効果があったと思う。官庁が動いてからでない民間が動けないこともあるので先頭に立って動いてほしい。環境対策については市によっても動きがまとまっておらず県が主導する形で動いてほしい。

地球温暖化問題は次世代へ現世代の努力が評価されるものである。個人・企業共に立場はあるがこの問題を意識して行動を取るべきと考える。我が愛知県には英知と技術があると期待する。

地球温暖化は、今や地球規模で考えなくてはならない問題である。特に愛知県は愛・地球博をはじめとして日本の中でも環境問題に対して、真っ先に率先すべきである。車産業など大手企業の協力のもと官民一体で低炭素社会実現を進めて欲しい。その為には企業、個人生活共に多少の犠牲はやむを得ないと思う。

もっと公共事業の予算を地球温暖化対策に使うべきである。役所側の取り組みがあまり見えてこない。

税金使途を再考して地球温暖化対策に有効活用すること。増税反対。

地球汚染対策と産業発展重視は相反すると考えられがちであるが、百万年単位の未来の地球に価値を置いた最優先重要事項として地球温暖化汚染の取組をしてほしい。予防、対策、教育を三本柱に国や県の役割に期待する。

どうしたって省エネをやるしかない現状であり、皆わかっているやれない。議論ばかりしないで個人まかせでなくそろそろ行政として実施しないと間に合わなくなる感じがして仕方がない。

工業県のイメージも良いが、「環境県」のイメージアップに期待したい。

県や各自治体等の公共施設は民間に先駆けて太陽光発電など地球温暖化対策の先陣を切っていくべき。

公用車のハイブリッド化、全員電車通勤、照明のLED化等県民に対して率先して低炭素化をする。

過剰包装等まだまだ企業意識が低く人任せだと思う。昔のようなパック持参量り売りするぐらいの意識転換が必要。高速道路を無料化すれば渋滞も予想され、政治家もどこまでCO<sub>2</sub>の削減のことを考えているのか疑問に思う。行政の指導力に期待する。



## (5) エコライフの実践について

「CO<sub>2</sub>を減らす21ヶ条」を読んで半分しか実行していないことがわかった。自分では努力しているつもりだったが。すぐできること（コンセントからプラグを抜く）から始めようと思う。

私達が少しでも地球温暖化のことを考えるなら、1人1人がもっと自然を大切に、コンセントを抜く、使っていない電気を消す、自動車に乗らずに歩く等、微量でも自分がやれる事をやる事が大切だと思う。

主婦としては、電気類をこまめにチェックすることに努めたい。交通機関も自動車を使わず、公共の電車・バスに乗り自転車・徒歩にしているようにしている。

温暖化は私達の今までやってきたことで起こっているのであるから、一人一人が気をつけるだけでも大きな対策だと思う。私の家では生ごみを出さない様に分解する装置を使っている。

電気をこまめに切るなどできることを私は実践していきたい。

地球温暖化については、深刻な問題だとは知っていたけど、家庭で出来るエコについて今後もっと気をつけて取り組んでいくべきだと思った。他の家庭でも省エネに取り組んでいけるように、具体的に呼び掛けていくべきだと思う。

毎日のコツコツとした一人ひとりの省エネが地球温暖化防止に役立つと考えられるので、これからも我が家から省エネを続けたい。

各家庭の主婦に呼び掛け小さなことをコツコツやるのは必要。「私ぐらいやってもいいや」と思ってしまうことがあるが、それが積み重なっては大変なことになる。子供たちの将来のために私はコツコツと環境に良いことをしていきたい。家で親子で取り組むといいと思う。

家庭内では節約も兼ねてCO<sub>2</sub>削減の細かな対応は行っているものの、車は幼稚園の送迎に欠かせず毎日使用してしまう。住居も山の上の住宅地のため自転車利用も正直おっくうになってしまっている。

## (6) ヒートアイランド対策、緑化の推進について

セントラルパークの地上部分を芝生化し、街中でもピクニックができるような環境にしてほしい。公共交通機関で来られるし、買い物と遊びが同じ場所で出来るから、消費にもいい影響となるのでは。

伏見・栄近辺のオフィス街・繁華街の道路をアスファルトではないものにして温度を下げてほしい。

アスファルトは暑くなるのでやめて、木質チップなど自然素材を活用する。田畑が少なくなっている。農業の緑化維持の側面をもっと高く評価する。

公の区域に木・花を多く植えて欲しい。その為にお金を県、市、(国)等が出してほしい。

公園等を増やし、樹木を植えてCO<sub>2</sub>の吸収を図り、各家庭においても樹木や植物によるグリーン

カーテンを植えCO<sub>2</sub>を少なくする運動を大々的に展開する。

ビルの屋上や壁に緑地や緑壁を設置するなど建物の容積に応じた割合で緑化を推進する制度を設ける。所有者に費用負担が発生することから、固定資産税の軽減措置や補助金制度が必要になるかも。理屈で理解できても経済的な負担が課題になってくると思う。

グリーンカーテンのさらなる普及等を補助金によって促進させることも必要と考える。(補助金は1戸あたり1,000円程度で良いと思う。)

愛知県内にある役所に行くとき緑のカーテンを育てているところをよく目にする。このように公共の施設などで小さなことからコツコツと市や町全体で働きかけることが県民一人一人の意識付けとなり、大きな成果につながると思う。

年々樹木が少なくなっているように感じる。また、近くに流れる川も工事をしていてコンクリートに変わっている。草刈の手入れを考えるとしかたないのかなと思うが“緑のある川”の風景がなくなるのは残念。

森は光合成で日中にCO<sub>2</sub>を吸い酸素を出すと習ったが、CO<sub>2</sub>を吸収する森林を増やす事では対応できないのか。

林業で生活が成り立つような政策を実施する。(雇用補助金を出してもよいと思う。)

## (7) 企業における対策について

企業への温暖化対策は義務として必要だと考えられる。

愛知県はものづくりが盛んであり、工場が多くあり、各事業所の日々の削減努力は必須である。そこから生み出される完成品(自動車・機械等)もクリーンな製品が望まれる。

排出削減義務は大企業の使命だと思う。今やらなければ手遅れになってしまうと思う。

モノづくりの仕事にかかわっている自分としてはまだまだ企業は省エネ出来る部分があると思う。もっと企業に強く省エネをするようにさせるべきだと思う。

企業に対しては、中小企業の温室効果ガス排出削減の努力に援助助成を行ってはどうか。

利益を出さないといけない企業は依然対応が遅れていると思う。例えばオフィスの照明は昼間でも煌々とついている。これは仕事をするということに必要なものだがLED蛍光灯にすればかなり効果は出ると思う。ただし、初期投資は必須で、悩ましい問題である。しかしエコを唱えている企業くらいはこのあたり意識しても良いのではないかと思う。

持続可能な社会のためには企業活動を制限させることは避けられないので、大企業のみならず中小零細企業への支援措置が必要不可欠(不可能な企業には淘汰の道もやむをえない)。防止策を行っている企業やNPOへの表彰、宣伝を大々的にやってほしい。

排出削減の義務化には賛成。ある企業から議員が出ているからとか献金があるからという不公平なやりかたがあってはいけない。きちんと監督もして欲しい。

県内の大企業が温室効果ガス排出削減に積極的になってくれるのが大きな力になると思う。

企業への過度な削減義務化は産業の空洞化を招く可能性が大。まして、この不況期においてはいかにバランスを取るか、行政として何が実現可能なのが十分に議論されることが必要であると思う。

企業に対する温室効果ガス排出削減は義務付けることは避けるべき。(規模の大小業種により一概に測れない為。) 民間の生産意欲や生産性をそぐ可能性があるため。

排出量の多い企業に削減を義務付けることは経済への過度の影響を与える可能性が大きいと思われる、削減ばかりにこだわらず慎重な対応を望む。

## (8) 再生可能エネルギーの導入拡大について

温室効果ガス削減と経済発展は、対極にある問題だが、二酸化炭素排出の少ない代替エネルギーの開発が急がれるのでは。

各家庭に太陽光発電を取り付けることにより、県全体の二酸化炭素枠は削減できるはず。無駄な税金を使うなら各家庭に太陽光発電を無償で提供するののも一つの案だと思う。

石油、天然ガスは有限であるからいずれは枯渇していく。これからは半永久的である太陽光の利用のみがエネルギー源の中心となる。目を向けよう太陽に。いかにして利用していくか知恵をしぼろう。

これまであまり注目されていない小規模水力発電をもっと推進すべきと考える。「川の流れエネルギー」をもっと活用できるのではと思う。水利権、漁業権等河川の利権は複雑だと聞くが、そこそ行政の力を発揮し推進すべきと思う。

低炭素社会実現のためのひとつとして、太陽光発電・風力発電の推進が必要。

次世代エネルギーに対する個人への補助金制度や、取扱い企業に対する支援等、今後も継続して実施をお願いしたい。

太陽光発電の設置や戸別風力発電とか、脱石油エネルギーに繋がる設備の設置や活動等を幅広く指定し、その効果の大きさに応じてある程度傾斜を付けて公的助成をして欲しい。もちろん期間限定。

新型給湯器や住宅太陽光発電等の費用効果や耐用年数、それを使用した場合のガス削減率等を広くPRし認知する機会を増やしてほしい。

太陽光発電等、学校や役所等に積極的に整備してほしい。

太陽光発電を導入して、温暖化について関心を持つようになった。国会での環境に配慮した税金や優遇が浸透している。前向きに動いているので良い動きだと思う。

## (9) 地球温暖化の不安について

気候が昔と違う。昔はカンカン照りが続くと雷が必ずゴロゴロと大きな音を出して強い雷が轟い



たけれど、昨今では一度も雷が来ない。もくもくとした大きな入道雲も見えない。

最近の局所的な豪雨や竜巻や雷は、30年前とは大きく違っている。以前、シンガポールに駐在していたが、その時に経験したスコールや雷等と同じ感覚に思える。

自分が、子供のころと比べて家の中にいる時、エアコンを使用しなければ暮らせない。夏の最高気温の違いができてきているのは、やはり温暖化の影響があると思うし、この夏の蝉が鳴き始めたのを聞いたのは6月の梅雨の頃。自然界にもひずみが出てきているのかと思う。

子孫の将来を思う時慄然たるものがある。私の住む知多半島は近年ほとんど雪が降らなくなった。これではいけない。冬は寒く夏は暑く、昔の地球にしてほしい。

最近竜巻の発生が多くて、色々な被害が増えてきたのは気候の変化なのではと思う。

庭の梅の花が11月上旬に咲くようになった。低炭素社会実現に向けて家計の負担増は少し頭が痛い話題だが、地球温暖化が木々や人間の体に悪影響をもたらして、やがては病を起こすのではないか不安。

普通に暮らしていても、温暖化が感じられるくらい地球はとても危険だと思う。もうすぐ12月だというのにぼかぼか暖かい。生活はしやすいけど、これは危険だと心から思う。

小さな子供が3人いるため、次の世代に大きな悪影響を与える温暖化にはとても不安を感じる。

子供が生まれて、未来に残す地球がこんな状態かと思うと、正直とても不安。子供たちがかわいそう。

## (10) 温室効果ガス排出に対する課税や規制について

次世代のためにできることは、私達の責任としてきちんと実施していかななくてはならない。“環境に良い”という新しい価値を大切にしていってほしい。金銭面での負担が増えたとしても何に使われていてどのような結果をもたらされたのかわかればよいと思う。一番いけないことは、市民・企業への負担だけお願いして情報を流さない状況になってしまうこと。

炭素税を、合理的理由をつけて課税すべき。つまりは大型車のように燃料を多く食う製品には高い税金をかける必要がある。

高速道路の無料化で、車で移動する人も増加、より二酸化炭素が増えていると思う。環境を守るためには、無料化はやめて、ガソリン税も増税すべきだと思う。

何を実施するにしても、「～してほしい」といった方法でなく、法令で義務付けしたり、前向きに実施する人への還元（たとえば税を減らすetc）を行ったりするなど、住民・国民にはっきりとわかるやり方が必要。早急に推し進めていってほしい。

経済への影響も考えられるが、ある程度強制的に企業や家庭にCO<sub>2</sub>削減を実施させていかななくては、効果も上がらないし、手遅れになると思う。

税金を安くするのではなく高くして環境対策に還元して県民の意識を高めてほしい。企業はせいぜい3年後5年後の計画。国や県に携わっている人は50年後100年後の状況を見据えた視野に立っ

て業務を推進してほしい。

人類の生存にかかわるならば石油など燃料消費を縮小するために、消費させないように価格を高くし消費する機関（エンジン）を作らせないように高価なものにすべきである。

## (11) 国際的な取組や国の取組について

地球温暖化防止は国レベル、地球レベルで根本的な対策を早急に打ち立てることが重要ではないか。アメリカ、中国、日本、国連が一体となって本腰を入れることを望む。

アメリカの二酸化炭素の排出量に比べれば、我が国の排出量など微々たるもの。国際的な競争戦略なしに、二酸化炭素の削減だけをおおりに立てるのは、将来世代の国益を損なう行為でしかない。地球温暖化防止が大切なのは言うまでもない。だが、愛知県は日本の産業を担う。ならば、日本を牽引する国際戦略を立案することは愛知県の責務だと思う。

日本等先進国の対策も重要だが、意識の低い国への対応も重要だと思う。

県単独で進むのではなく、国全体で対策していく必要がある。

## (12) 資源の節約について

商品の過剰包装をやめる。リサイクルを促進する。（ごみも減らせる）

家庭の生ゴミについても、それぞれ収集場にポリバケツを置いて、袋に入れずにそのまま捨てたらいと思う。肥料にするとか、そういう機材を安く提供するとか。

食品トレーをやめて袋詰めにするという「名古屋市のエコ作戦」を他の地域でも行ってほしい。

次々と不要なパッケージが増えてゴミを作り出しているのが現在の状態だと思う。個人個人が気を付けていても大手企業などが何も考えずにいる。昔は自分の買い物かごを持参してパックされていない商品を購入するのが当たり前だった。開発や発展の結果が地球温暖化を招いている。原点に戻らなければ暮らし良い状態にならない。

エアコン、冷蔵庫も使用できるものを買替えるというのは廃棄の段階でいかなものか？ゴミの削減とエネルギーの削減、トータルで本当にエコなのはどちらか？そのデータは一度も見たことがないことに疑問を感じる。

まだ使える車をわざわざエコカーに替えるのはホントにエコなのか？星3つのエコカーで年間数万キロ走ると、10年前の車で年間数千キロ走るとどっちがエコか。既得の必需品に環境負荷税を掛けるのは不公平で問題がある。

省エネ家電や自動車の買い替えはそもそも環境にやさしいのか疑問。もっと今あるものを大切にすることこそがエコなのではないか。

太陽光パネル、エコカー、エコ電機商品等買い替えることはその分新製品の製造のために余分

にCO<sub>2</sub>を排出することにならないか。物を使い続けることと、エコ商品に買い替えることでのCO<sub>2</sub>排出量はどちらが多いのか。そういった問題点も提起してほしい。

巷に言われる、エコポイント、補助金等は全部景気対策。何しろお金がかかるのはよくない。正直そんなものは我慢すればいい。

### (13) その他

対策としては原子力発電の推進しかないと思われ、そのために力を尽くすのが愛知県としては良いと思う。

地産地消を促進して、地元の農業振興と物流のルートカットにより温暖化現象を削減すると良いと思う。

環境技術の開発と普及に関連企業への援助協力を望む。

食料品や日用品に二酸化炭素の排出量を表示することに大賛成。食品等を選ぶ際に排出量が表記していると必ず確認するようになると思う。

季節によってタイムスケジュールを国全体で変えて、太陽の光を最大に使えるようにする。夜間の自販機の電気代がもったいない。

急にこの2年程で大きく地球温暖化が叫ばれる様になり、何か不自然さを感じる。一部の人のお金儲け、或いは雇用の為に新しい産業を育成しなければならずその為に「温暖化=CO<sub>2</sub>削減」を叫んでいるように感じる。

そもそも二酸化炭素の排出と地球温暖化の間にあるとされる因果関係自体が疑わしいという考え方をもっている。

現在愛知県では設楽ダム、トヨタ自動車テストコース等の大型事業が行われているが、それらの必要性和、工事や自然破壊に伴うCO<sub>2</sub>排出の問題や生物多様性の取り組みなどを考えると県の行政の一貫性、整合性がなく矛盾していると思われる。本気で温暖化や生物多様性の問題に取り組もうとしているのか疑問。

## 質問と回答 (単位...「総数」：人、「総数」以外：%、四捨五入により合計は必ずしも100%にならない)

### 1 地球温暖化についての感じ方

(地球温暖化問題の認識)

問1 新聞やテレビ等で報道されているように、化石燃料(\*)の使用や森林破壊によって、大気中の二酸化炭素やメタンガスなどの「温室効果ガス」が増加し、その影響で地球の温暖化が始まっていると言われています。

あなたはこのことについてどのように思いますか。あなたの感じ方に最も近いものを選んでください。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	239	247	148	186	152	67	103	87	86	143
1 人間が出す温室効果ガスが原因で地球温暖化が生じていることは(ほぼ)間違いないと思う	58.2	54.0	62.3	48.6	61.3	63.8	58.2	68.0	57.5	47.7	58.0
2 人間が出す温室効果ガスが原因で地球温暖化が生じている可能性は高いと思う	31.9	33.1	30.8	40.5	30.1	25.7	28.4	24.3	32.2	36.0	36.4
3 地球温暖化の原因が、人間が出す温室効果ガスかどうかはわからないと思う	5.1	6.7	3.6	4.7	3.8	7.2	9.0	6.8	3.4	8.1	1.4
4 地球温暖化の原因は、人間が出す温室効果ガスではない(原因の1つであったとしてもその割合は小さい)と思う	2.1	2.5	1.6	2.7	2.2	1.3	3.0	0.0	2.3	3.5	2.1
5 そもそも地球温暖化が起きているかどうかはわからないと思う	0.4	0.8	0.0	0.0	0.5	0.7	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0
6 その他	1.4	2.5	0.4	2.7	1.6	0.0	0.0	0.0	2.3	3.5	1.4
7 わからない	0.6	0.4	0.8	0.7	0.5	0.7	1.5	1.0	0.0	0.0	0.7
無回答	0.2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0

(日常生活での実感)

問2 近年、日本においても気候や動植物の生態が変化していると言われています。

あなたの日常生活の中で思い当たるものを選んでください。(回答はいくつでも)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	239	247	148	186	152	67	103	87	86	143
1 近年、集中豪雨が増えたり、少雨が続きたりして、雨の降り方が変化していると思う	74.9	72.4	77.3	71.6	73.7	79.6	65.7	77.7	74.7	77.9	75.5
2 近年、暑い日が増加し、寒い日が減少するなど、一年を通じて気温が上昇していると思う	76.3	74.1	78.5	77.0	72.6	80.3	62.7	76.7	75.9	77.9	81.8
3 近年、猛暑や冷夏、梅雨の時期が変わるなど、季節の巡り方が不順だと思う	71.8	68.2	75.3	70.9	74.7	69.1	74.6	66.0	67.8	70.9	77.6
4 近年、植物の開花時期などが早まる、以前見かけた動植物がいなくなる、見かけなかった動植物を見るなど、動物や植物が変化していると思う	49.0	48.5	49.4	43.9	48.4	54.6	28.4	38.8	54.0	52.3	60.8
5 その他	5.3	4.6	6.1	7.4	4.8	3.9	3.0	3.9	9.2	2.3	7.0
6 感じたことはない	1.4	2.5	0.4	2.0	1.6	0.7	1.5	1.9	1.1	2.3	0.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(地球温暖化への感じ方)

問3 IPCC(\*)の報告書によれば、過去100年間に地球の平均気温は0.74 上昇したとされています。今後、21世紀の終わりまでに気温はさらに上昇し、それに伴い、水不足、食糧不足、生物の種の大量絶滅、洪水被害の増加などが懸念されています。

こうした地球温暖化の予測について、あなたはどのように感じますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	239	247	148	186	152	67	103	87	86	143
1 非常に不安に思う	49.0	43.1	54.7	42.6	49.5	54.6	49.3	53.4	51.7	46.5	45.5
2 不安に思う	33.3	33.9	32.8	35.8	34.4	29.6	28.4	31.1	29.9	32.6	39.9
3 やや不安に思う	14.0	17.6	10.5	15.5	13.4	13.2	20.9	13.6	10.3	16.3	11.9
4 遠い将来のことなので、心配していない	2.1	2.9	1.2	4.7	0.5	1.3	1.5	0.0	4.6	4.7	0.7
5 地球はそもそも温暖化していないと思うので、心配していない	0.2	0.4	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0
6 その他	1.2	1.7	0.8	1.4	1.6	0.7	0.0	1.0	2.3	0.0	2.1
7 わからない	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 2 低炭素社会づくりについて

(低炭素社会を実現させるべきか)

問4 地球温暖化問題を解決するためには、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を2050年頃までに世界で現在の半分にする必要があり、中でも、日本を含めた先進国全体では80%削減しなければならないと言われていています。

このため、エネルギー消費の少ない省エネ住宅や低燃費の自動車、太陽光・バイオマスエネルギー(\*)といった再生可能エネルギーを大量に導入するなどして、快適な生活を維持しながら二酸化炭素などの排出が少ない社会(=低炭素社会)を実現しなければならないと言われていています。

このことについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	239	247	148	186	152	67	103	87	86	143
1 将来の世代のために、低炭素社会を出来るだけ早く実現しなければならない	79.6	76.2	83.0	78.4	82.3	77.6	80.6	82.5	79.3	77.9	78.3
2 低炭素社会は実現すべきだが、それほど急ぐ必要はない	10.7	12.1	9.3	9.5	11.3	11.2	10.4	8.7	10.3	15.1	9.8
3 低炭素社会を実現することは出来ないと思う	5.6	6.7	4.5	8.8	2.7	5.9	4.5	4.9	2.3	5.8	8.4
4 地球はそもそも温暖化していないと思うので、低炭素社会を実現する必要はない	0.6	1.3	0.0	1.4	0.5	0.0	0.0	0.0	1.1	1.2	0.7
5 その他	1.9	2.9	0.8	0.7	2.2	2.6	1.5	0.0	4.6	0.0	2.8
6 わからない	1.4	0.8	2.0	1.4	1.1	2.0	3.0	2.9	2.3	0.0	0.0
無回答	0.2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.7	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0



(低炭素社会づくりの対応方針)

問5 2050年頃までに、温室効果ガスの排出を大幅に削減し、持続可能な低炭素社会を実現するために、愛知県はどのように対応していくのがよいと思いますか。

あなたの考えに最も近いものを選んでください。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	239	247	148	186	152	67	103	87	86	143
1 愛知はモノづくり県であり、これまでの技術の蓄積を活かしつつ、省エネルギーや再生可能エネルギー利用などにかかる環境技術の開発を促進して、最新の環境技術の普及を図ることに重点をおくべきだと思う	30.0	38.9	21.5	27.7	31.7	30.3	31.3	33.0	27.6	27.9	30.1
2 物質的な充足から心の豊かさへ価値観を転換し、物質やエネルギーの消費を極力抑制するよう、ライフスタイルと社会の仕組みを根本的に変えていくことに重点をおくべきだと思う	25.1	22.6	27.5	27.0	25.3	23.0	25.4	22.3	27.6	26.7	24.5
3 新しい環境技術の開発・普及による解決と、価値観・ライフスタイルの転換の両面にバランスよく取り組むべきだと思う	42.4	36.0	48.6	43.2	40.3	44.1	43.3	39.8	42.5	45.3	42.0
4 その他	1.2	2.1	0.4	2.0	1.1	0.7	0.0	1.0	2.3	0.0	2.1
5 わからない	0.8	0.4	1.2	0.0	1.1	1.3	0.0	2.9	0.0	0.0	0.7
無回答	0.4	0.0	0.8	0.0	0.5	0.7	0.0	1.0	0.0	0.0	0.7

(低炭素社会実現のための家計負担)

問6 「低炭素社会」をつくるためには、割高ではあるが高性能な省エネ家電・住宅や環境に優しい自動車に買い換えたり、住宅に太陽光発電を設置したり、発電所での対策費用をまかなうために電力料金が値上げされるなど、家計の負担が増える側面があります。

一方、家電、住宅、車などが省エネ型になることなどにより、電気、ガス、灯油、ガソリンの使用量を減らせるなど、家計の負担が減る側面もあります。

「低炭素社会」実現のために、あなたはどの程度なら家計の負担が増えてもよいと考えますか。

(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	239	247	148	186	152	67	103	87	86	143
1 全く負担したくない	12.1	14.6	9.7	16.9	8.1	12.5	19.4	15.5	11.5	9.3	8.4
2 1家庭当たり月500円未満	20.0	18.0	21.9	23.0	18.3	19.1	19.4	19.4	20.7	18.6	21.0
3 1家庭当たり月500円以上1,000円未満	28.0	24.7	31.2	26.4	28.5	28.9	31.3	27.2	26.4	34.9	23.8
4 1家庭当たり月1,000円以上2,000円未満	19.3	19.7	19.0	12.2	22.6	22.4	16.4	18.4	13.8	15.1	27.3
5 1家庭当たり月2,000円以上5,000円未満	8.2	9.2	7.3	8.1	9.1	7.2	7.5	7.8	9.2	7.0	9.1
6 1家庭当たり月5,000円以上	2.9	3.8	2.0	4.1	3.2	1.3	1.5	3.9	3.4	4.7	1.4
7 その他	3.5	4.6	2.4	2.0	3.8	4.6	1.5	1.9	6.9	1.2	4.9
8 わからない	6.0	5.4	6.5	7.4	6.5	3.9	3.0	5.8	8.0	9.3	4.2
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

### 3 今後必要な施策について

(家庭のエネルギーに関する知識・理解)

問7 地球温暖化問題は、私たちの暮らし方やエネルギーの使い方と深く関わっています。地球温暖化を防止するためには、こうしたことを知ることがはじめの一歩だと考えられます。

次のうち、あなたがご存知のもの（数値はご存知でなくても、傾向をご存知のものを含みます）を選んでください。（回答はいくつでも）

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	239	247	148	186	152	67	103	87	86	143
1 県内の家庭全体から排出される二酸化炭素の量は、1990年度と比べて約3割増加している	34.4	36.8	32.0	32.4	34.4	36.2	23.9	27.2	35.6	40.7	39.9
2 家庭生活から排出される二酸化炭素の約6割が自動車と照明・家電製品の使用に伴うものである	45.5	51.0	40.1	45.3	44.1	47.4	29.9	29.1	39.1	55.8	62.2
3 日本で使っているエネルギー（石油、石炭、天然ガスなど）のほとんどは、海外から輸入している（日本のエネルギー自給率 約4%）	86.6	87.9	85.4	85.1	86.6	88.2	85.1	79.6	90.8	87.2	89.5
4 自動車の発進時にアクセルをふんわり踏んで、ゆっくりスタートすることで、約10%の燃費が向上できる	74.3	74.1	74.5	69.6	79.6	72.4	71.6	80.6	79.3	67.4	72.0
5 リモコン型の家電製品は、微弱な電気が流れているので、使っていないときは、コンセントを抜くことで、家庭の電力使用の約7%を削減ができる	81.3	77.8	84.6	76.4	86.0	80.3	82.1	80.6	82.8	77.9	82.5
6 1～5について知らなかった	1.2	0.4	2.0	3.4	0.5	0.0	4.5	1.0	0.0	1.2	0.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



(家庭での地球温暖化対策の実施状況)

問8 あなたの家庭で地球温暖化対策として既に行っていることは、どのようなことがありますか。

また、今後実施したいと思う地球温暖化対策はどれですか。次の中から、あてはまるものを選んでください。(回答は(1)～(11)の場合ごとに、それぞれ1つ)

	(1)使っていない部屋の照明などをこまめに切る	(2)白熱電球を省エネLED照明に替える	(3)待機電力を削減するため、使わない時は電源を切ったり、コンセントからプラグを抜いたりする	(4)冷蔵庫の温度は暖房の温度に設定する	(5)冷蔵庫の家電製品を省エネ型に替える	(6)緑のカーテン(ヘチマや朝顔など、つる性の植物を窓の外側に植えた自然のカーテン)を育てる	(7)包装の少ない商品や詰め替えの容器を選ぶ	(8)なるべく旬のものや、なるべく近くでとれたものを食べる	(9)なるべく車を使わず、自転車・バスを使う	(10)エコドライブ(ふわりアクセルやアイドリングストップ)を心がける	(11)自動車やハイブリッド自動車などに替える
総数	486	486	486	486	486	486	486	486	486	486	486
1 既に行っている	94.7	37.0	64.6	84.4	33.1	26.1	80.2	66.7	52.3	61.1	14.2
2 今後実施したい	4.9	47.9	27.0	11.1	52.5	30.2	14.6	20.6	28.0	29.2	53.7
3 今は特に考えていない	0.4	14.8	8.2	3.7	13.6	43.0	4.7	12.3	19.1	8.0	30.9
無回答	0.0	0.2	0.2	0.8	0.8	0.6	0.4	0.4	0.6	1.6	1.2

(家庭における省エネ改修等の意向)

問9 低炭素社会実現のためには、日常的な環境配慮だけでなく、住宅そのものを省エネ型に変えたり、太陽光などの再生可能エネルギーを導入したりすることが必要となります。

次のうち、あなたが導入している、あるいは、今後導入したいと思うものはどれですか。当てはまるものを選んでください。(回答は(1)～(7)の場合ごとに、それぞれ1つ)

	(1)省エネ性能の優れた住宅(買換または建替)	(2)省エネリフォーム(窓の二重サッシ化、壁の高断熱化等)	(3)エネルギー効率の高い新型給湯器	(4)太陽熱温水器	(5)住宅太陽光発電	(6)家庭用燃料電池	(7)ペレットストーブ
総数	486	486	486	486	486	486	486
1 既に導入している	11.1	17.3	15.0	7.4	3.9	0.8	0.2
2 今後導入したい	30.2	31.9	41.6	28.0	34.0	24.9	12.6
3 今は特に考えていない	58.2	50.2	42.8	64.0	61.5	73.9	86.8
無回答	0.4	0.6	0.6	0.6	0.6	0.4	0.4

(建物や住宅の省エネ化)

問10 2050年頃までに温室効果ガス排出量の大幅削減を実現するためには、建物や住宅をなるべく早く、エネルギーの消費量の少ない省エネ型に替えていくことが重要です。

これを実現するためには、どのようにするのが最も有効だと思いますか。(回答は2つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	239	247	148	186	152	67	103	87	86	143
1 新築の建物や住宅には、建築費が多少高くなっても、一定の省エネ性能を備えることを義務付けるべきだと思う	27.2	28.0	26.3	29.1	25.8	27.0	25.4	27.2	25.3	20.9	32.9
2 住宅を販売する時に省エネ性能を分かりやすく表示(説明)させるようにすべきだと思う	35.4	28.0	42.5	39.9	28.5	39.5	29.9	31.1	35.6	45.3	35.0
3 建物や住宅の省エネ性能により、固定資産税などが加減されるようにすべきだと思う	55.3	61.1	49.8	55.4	61.8	47.4	55.2	56.3	58.6	52.3	54.5
4 省エネ性能の高い建物や住宅には金利が優遇されるようにすべきだと思う	47.7	48.1	47.4	37.2	53.2	51.3	65.7	51.5	50.6	40.7	39.2
5 省エネ化に熱心な建築業者やリフォーム業者を増やすべきだと思う	12.6	14.6	10.5	16.2	7.5	15.1	7.5	6.8	8.0	18.6	18.2
6 その他	2.5	2.5	2.4	2.0	2.2	3.3	1.5	0.0	5.7	3.5	2.1
無回答	0.2	0.0	0.4	0.7	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0

(低炭素の交通)

問11 交通部門から出る温室効果ガスは、わが国の排出量全体の約20%を占め、そのほとんどは自動車からです。

現在、ハイブリッド自動車や電気自動車などの次世代自動車の開発が進められていますが、低炭素社会においては、なるべく自動車を使わない交通体系を実現することも重要だと考えられます。

将来、交通部門の温室効果ガス排出を大幅に削減するためには、どのようにするのが効果的だと思いますか。(回答は2つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	239	247	148	186	152	67	103	87	86	143
1 鉄道駅周辺など、公共交通が利用できる場所に市街地(住宅や商業施設など)を集中させる	17.3	15.1	19.4	16.9	14.0	21.7	20.9	13.6	13.8	18.6	19.6
2 郊外の最寄り駅前に十分な駐車場を整備して、自動車から鉄道に乗り換える「パーク・アンド・ライド」をしやすいとする	38.7	38.1	39.3	35.1	43.0	36.8	22.4	36.9	37.9	45.3	44.1
3 会員制により自動車を共有し、必要な時に携帯電話などから予約して利用する「カーシェアリング」などの普及を図る	14.4	15.1	13.8	15.5	10.2	18.4	19.4	13.6	16.1	16.3	10.5
4 都心へ乗り入れる自動車に課金するなどして、都心部への自動車の流入を減らす	16.3	22.6	10.1	21.6	11.8	16.4	9.0	23.3	9.2	22.1	15.4
5 自転車道やコミュニティサイクルを整備するなどして、自転車を利用しやすいとする	32.5	31.4	33.6	31.1	35.5	30.3	31.3	25.2	39.1	29.1	36.4
6 バスや路面電車などの公共交通を充実させる	35.8	35.1	36.4	39.9	37.1	30.3	37.3	35.9	36.8	27.9	39.2
7 ハイブリッド自動車や電気自動車などのエネルギー消費が少ない自動車を普及させる	31.3	29.3	33.2	23.6	35.5	33.6	40.3	35.9	32.2	30.2	23.8
8 その他	2.9	2.5	3.2	4.1	2.2	2.6	4.5	2.9	2.3	3.5	2.1
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(カーボンフットプリント)

問12 商品の製造、使用、廃棄など、それぞれの段階で排出される温室効果ガスの合計量（カーボンフットプリントと呼ばれます。）を商品に表示しようという動きがあります。

こうした表示がなされた場合、あなたの商品選択にどのように影響すると思いますか。

(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	239	247	148	186	152	67	103	87	86	143
1 値段は多少高くても、温室効果ガスの排出量の少ない商品を選ぶ	9.9	13.0	6.9	6.8	7.5	15.8	1.5	12.6	6.9	9.3	14.0
2 同じ値段ならば、温室効果ガスの排出量の少ない商品を選ぶ	72.6	65.7	79.4	74.3	76.3	66.4	70.1	68.0	77.0	73.3	74.1
3 何を買うかは品質と値段で決めるため、温室効果ガスの排出量は考慮しない	14.6	18.4	10.9	16.9	12.9	14.5	23.9	17.5	11.5	16.3	9.1
4 その他	1.2	1.3	1.2	0.7	1.1	2.0	1.5	1.0	2.3	1.2	0.7
5 わからない	1.4	1.7	1.2	1.4	1.6	1.3	1.5	1.0	2.3	0.0	2.1
無回答	0.2	0.0	0.4	0.0	0.5	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0

(カーボンオフセットに対する評価)

問13 事業活動等から排出される二酸化炭素を、太陽光や風力といった再生可能エネルギー発電や森林整備への投資など、二酸化炭素の削減活動により埋め合わせる「カーボンオフセット」という考え方があります。

この「カーボンオフセット」の活動を行っている企業が少しずつ増えていますが、こうした企業の取組に対して、あなたはどのように感じますか。あなたの感じ方に最も近いものを選んでください。

(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	239	247	148	186	152	67	103	87	86	143
1 高く評価する	54.1	48.5	59.5	49.3	57.5	54.6	47.8	46.6	54.0	58.1	60.1
2 ある程度評価する	38.7	42.7	34.8	40.5	38.2	37.5	44.8	44.7	37.9	34.9	34.3
3 あまり評価しない	4.1	5.9	2.4	4.7	2.2	5.9	6.0	3.9	4.6	3.5	3.5
4 その他	0.4	0.8	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0
5 わからない	2.7	2.1	3.2	4.1	2.2	2.0	1.5	3.9	2.3	3.5	2.1
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(温室効果ガス排出削減の義務化)

問14 温室効果ガスの排出を減らすためには、排出量の多い大企業などに削減を義務付けることが有効ではないかという意見があります。

一定規模以上の企業に対して、温室効果ガスの削減を義務化することについて、あなたはどのように考えますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	239	247	148	186	152	67	103	87	86	143
1 排出削減義務化は、確実に排出量を減らすことができ、地球温暖化対策として有効だと思うので実施すべきである	37.2	36.8	37.7	34.5	40.3	36.2	26.9	42.7	46.0	33.7	35.0
2 排出削減義務化は、地球温暖化対策として有効だが、経済へ過度の影響を与えないよう、注意する必要があると思う	52.3	52.3	52.2	54.1	51.6	51.3	58.2	44.7	43.7	58.1	56.6
3 排出削減義務化は、公平な削減量の設定などが困難であり、実施すべきではないと思う	3.5	4.2	2.8	4.1	3.2	3.3	4.5	2.9	4.6	2.3	3.5
4 排出削減義務化は、産業の衰退を招くので、実施すべきではないと思う	1.6	2.5	0.8	1.4	1.1	2.6	1.5	1.0	1.1	2.3	2.1
5 排出削減義務化は、地球温暖化対策としての効果がわからないので、実施すべきではないと思う	1.4	1.3	1.6	0.7	1.6	2.0	4.5	1.9	1.1	0.0	0.7
6 その他	1.6	1.7	1.6	1.4	1.6	2.0	1.5	1.9	3.4	1.2	0.7
7 わからない	2.3	1.3	3.2	4.1	0.5	2.6	3.0	4.9	0.0	2.3	1.4
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

平成21年度第5回県政モニターアンケート報告書

「地球温暖化（気候変動）対策」  
平成22年2月発行  
愛知県知事政策局広報広聴課  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話(052)954-6168(ダイヤルイン)

この冊子は、再生紙を使用しています。

